

### 基準3 教員及び教育支援者

#### (1) 観点ごとの分析

観点3-1-①： 教員組織編制のための基本的方針を有しており、それに基づいて教員の適切な役割分担の下で、組織的な連携体制が確保され、教育研究に係る責任の所在が明確にされた教員組織編制がなされているか。

##### 【観点到係る状況】

本学の教員組織編制のための基本的方針は、広島大学学則（第6条から第18条（別添資料Ⅱ-3））及び広島大学の講座、学科目、研究部門及び診療科等規則（別添資料2-1-①-1）に定めている。また、教育研究に係る責任の所在を明確にするために、学部の学科、類又はコースに学科長、類長又はコース主任を、研究科の専攻に専攻長を、講座に講座主任をそれぞれ置くことができることとして、広島大学部局運営規則（別添資料2-1-①-2）に定め、各分野の教育研究の特性に配慮して、規則に沿って各部局で運営内規を定めている。

大学院重点化している本学では、ほとんどの教員の所属組織は大学院であることから、学部の教育研究の実施に当たっては、前掲資料2-1-①-Bに示すように、それぞれの研究科が協力することとしている。

参照資料	別添資料Ⅱ-3	広島大学学則
	*別添資料2-1-①-1	広島大学の講座、学科目、研究部門及び診療科等規則
	*別添資料2-1-①-2	広島大学部局運営規則

\* 別添資料2-1-①-1, 2については、広島大学公式ウェブサイト「広島大学規則集」を参照してください。  
(<http://home.hiroshima-u.ac.jp/~houki/reiki/aggregate/catalog/index.htm>)

##### 【分析結果とその根拠理由】

学部、研究科は、それぞれの教育研究の目的や特性に応じて、広島大学学則及び広島大学の講座、学科目、研究部門及び診療科等規則に示すとおり教員組織編成としている。また、広島大学部局運営規則及びこの規則に基づく各部局の運営内規により、教育研究に係る責任の所在を明確に定めている。

以上により、教員組織編制のための基本的方針を有しており、それに基づいた教員組織編制を行っている。

観点3-1-②： 学士課程において、教育課程を遂行するために必要な教員が確保されているか。また、教育上主要と認める授業科目には、専任の教授又は准教授を配置しているか。

##### 【観点到係る状況】

教員の配置状況は、別紙様式「大学現況票」に示すとおりである。

専任教員及び非常勤講師が担当する授業科目は、資料3-1-②-Aに示すとおりである。

各部局別の教員一人当たり（非常勤講師を含む）の学生数は、資料3-1-②-Bに示すとおり、全学平均7.93名である。

また、本学の教員選考の基準、基本指針として、広島大学教員選考基準規則（別添資料3-1-②-1）、広島大学における教員選考についての基本指針（資料3-1-②-C）、広島大学の教員の任期に関する規則（別添資料3-1-②-2）などの諸規則を定め、部局においても各分野の教育研究の特性に配慮して、規則に沿って細則を定めている。これらの基準、規則及び細則に沿って教員選考を行っている。

資料3-1-②-A 専任教員及び非常勤講師が担当する授業科目

区 分	教 授	准教授	講 師	助 教	非常勤講師	助 手
主要授業科目	○	○				
主要授業科目以外	○	○	○	○	○	
実験、実習等の補助及び学生の学習支援						○

(出典：大学での集計)

資料3-1-②-B 担当教員数（平成21年5月1日現在）

学 士 課 程	教員数計	学生数	教員1人当たり学生数
総合科学部	122	584	4.79
文学部	58	639	11.02
教育学部	187	2,171	11.61
法学部	31	865	27.90
経済学部	46	970	21.09
理学部	166	1,062	6.40
医学部	292	1,186	4.06
歯学部	148	517	3.49
薬学部	38	248	6.53
工学部	227	2,289	10.08
生物生産学部	69	447	6.48
計	1,384	10,978	7.93

(出典：大学での集計)

資料3-1-②-C 広島大学における教員選考についての基本指針

第1 目的

この基本指針は、各部局等が教員を選考するに際して、基本的に尊重すべき指針を示すものであり、これによって本学及び本学教員の人事の活性化に寄与することを目的とする。

第2 教員選考の原則

- (1) 教員の選考は、本学が総合研究大学として世界最高水準の教育研究の推進を目指す大学であることに鑑み、人格及び識見ともに優れた者について、その研究業績、教育業績及び教授能力などを総合的に判断し、各部局等の理念・目標・将来構想に沿って行うこととする。
- (2) 教員の選考は公募を原則とし、国内外を問わず広く適任者が得られるよう努力する。
- (3) 各部局等は、各教育研究分野の実状に基づいた適正な教員選考基準を作成する。
- (4) 教員の選考は、本学教員にふさわしい人格及び識見、教育能力、研究能力、その他の必要な能力を総合的に評価して行うが、教育主担当や研究主担当などを適用する場合は評価項目間の軽重を考慮する。
- (5) 教員の選考においては、女性、社会人及び外国人の任用について配慮し、また、特定の大学出身者に偏ることのないよう考慮する。

第3 教員選考の方法について

- (1) 教員の公募に当たっては、各部局等の理念・目標・将来構想に基づき、公募すべき教員の専攻分野を明確にする。
- (2) 教員の選考に当たっては、教授会(教授会を置かない部局等にあつては、これに代わる機関。以下同じ。)の下に選考委員会を設置する。
- (3) 選考委員会の委員の選出は、教授会が責任を持って行い、学内外の有識者を委員に加えることができる。
- (4) 選考委員会又は教授会は、教授会で最終選考を行う前に、必要に応じて、候補者の講義及び講演会等を行うものとする。

第4 教員の選考における学長の役割について

学長は、教員の選考が大学の理念・目標・将来構想並びに諸規則及びこの基本指針に沿って行われるように、各部局等に勧告することができる。

第5 教員の選考における部局等の長の役割について

各部局等の長は、教員の選考を発議し、教員の選考が学部、研究科、学科等の理念・目標・将来構想並びに諸規則及びこの基本指針に沿って行われるように、教授会に勧告することができる。

(出典：広島大学における教員選考についての基本指針)

参照資料 : \*別添資料3-1-②-1 広島大学教員選考基準規則  
 \*別添資料3-1-②-2 広島大学の教員の任期に関する規則  
 別紙様式 大学現況票

\* 別添資料3-1-②-1, 2については、広島大学公式ウェブサイト「広島大学規則集」を参照してください。  
 (<http://home.hiroshima-u.ac.jp/~houki/reiki/aggregate/catalog/index.htm>)

【分析結果とその根拠理由】

学士課程の担当教員の構成は、一人当たりの学生数からみて、教育課程の遂行に必要な教員を確保しており、大学設置基準も満たしている。

また、教員の選考基準、教員選考についての基本指針を設け、教員の質を確保している。

以上により、教育課程を遂行するために必要な教員（質、量）を確保している。

観点3-1-③： 大学院課程（専門職学位課程を除く。）において、必要な研究指導教員及び研究指導補助教員が確保されているか。

【観点に係る状況】

研究指導教員及び研究指導補助教員の配置状況は、別紙様式「大学現況票」に示すとおりである。

専任教員及び非常勤講師が担当する授業科目は、資料3-1-③-Aに示すとおりである。

各部局別の教員一人当たり（非常勤講師を含む）の学生数は、資料3-1-③-Bに示すとおりであり、修士課程・博士課程前期の平均で2.13名、博士課程後期・博士課程の平均で1.29名である。

また、観点3-1-②でも述べたとおり、本学の教員選考の基準、基本指針として、広島大学教員選考基準規則（別添資料3-1-②-1）、広島大学における教員選考についての基本指針（前掲資料3-1-②-C）、広島大学の教員の任期に関する規則（別添資料3-1-②-2）などの諸規則を定め、部局においても各分野の教育研究の特性に配慮して、規則に沿って細則を定めている。これらの基準、規則及び細則に沿って教員選考を行っている。

資料3-1-③-A 専任教員及び非常勤講師が担当する授業科目

区 分	教 授	准教授	講 師	助 教	非常勤講師	助 手
主要授業科目	○	○				
主要授業科目以外	○	○	○	○	○	
実験、実習等の補助及び学生の学習支援						○

(出典：大学での集計)

資料3-1-③-B 研究指導教員及び研究指導補助教員数（平成21年5月1日現在）

大学院課程		教員数計	学生数	教員1人当たり学生数
総合科学研究科	M	136	118	0.87
	D	136	113	0.83
文学研究科	M	58	153	2.64
	D	58	108	1.86
教育学研究科	M	195	379	1.94
	D	162	236	1.46
社会科学研究科	M	74	193	2.61
	D	74	121	1.64
理学研究科	M	156	293	1.88
	D	156	111	0.71
先端物質科学研究科	M	78	224	2.87
	D	78	58	0.74
保健学研究科	M	53	80	1.51
	D	53	119	2.25
工学研究科	M	203	587	2.89
	D	203	148	0.73
生物圏科学研究科	M	75	194	2.59
	D	75	111	1.48

大学院課程		教員数計	学生数	教員1人当たり学生数
医歯薬学総合研究科	M	146	159	1.09
	D	328	545	1.66
国際協力研究科	M	33	187	5.67
	D	33	85	2.58
計	M	1,207	2,567	2.13
	D	1,356	1,755	1.29

(出典：大学での集計)

参照資料：\*別添資料3-1-②-1 広島大学教員選考基準規則  
 \*別添資料3-1-②-2 広島大学の教員の任期に関する規則  
 別紙様式 大学現況票

\* 別添資料3-1-②-1, 2については、広島大学公式ウェブサイト「広島大学規則集」を参照してください。  
 (<http://home.hiroshima-u.ac.jp/~houki/reiki/aggregate/catalog/index.htm>)

【分析結果とその根拠理由】

大学院課程の研究指導教員及び研究指導補助教員の構成は、一人当たりの学生数からみて、教育課程の遂行に必要な教員を確保しており、大学院設置基準も満たしている。

また、教員の選考基準、教員選考についての基本指針を設け、教員の質を確保している。

以上により、教育課程を遂行するために必要な教員（質、量）を確保している。

観点3-1-④： 専門職学位課程において、必要な専任教員（実務の経験を有する教員を含む。）が確保されているか。

【観点に係る状況】

本学の専門職学位課程は、法務研究科のみであり、本研究科に配置されている専任教員数（実務の経験を有する教員を含む）は、別紙様式「大学現況票」に示すとおりである。

また、観点3-1-②, ③でも述べたとおり、本学の教員選考の基準、基本指針として、広島大学教員選考基準規則（別添資料3-1-②-1）、広島大学における教員選考についての基本指針（前掲資料3-1-②-C）、広島大学の教員の任期に関する規則（別添資料3-1-②-2）などの諸規則を定め、法務研究科では、その教育研究の特性に配慮して、広島大学大学院法務研究科教員選考基準内規を定めている。

法務研究科における実務経験を有する教員の状況は、資料3-1-④-Aに示すとおりであり、うち、みなし専任教員は、資料3-1-④-Bに示すとおり、いずれの教員も年間6単位以上の授業科目を担当するとともに、資料3-1-④-Cに示すとおり、教授会の構成員として組織運営に参画している。

資料3-1-④-A 実務経験を有する教員の配置状況（平成21年5月1日現在）

研究科名	専攻名	教員の実務経験	備考
法務研究科	法務専攻	検察官（1名）	
		弁護士（4名）	うち3名はみなし専任
		銀行（2名）	

(出典：大学での集計)

資料3-1-④-B みなし専任教員の授業担当状況(平成21年5月1日現在)

分類	職名	実務経験年数		担当授業科目		備考
		職種	年数(年)	授業科目名	単位数	
実・み	教授	法曹	27.1	法システム概論	0.1	オムニバス
				民事訴訟実務基礎	2	
				ローヤリング	2	
				民事法総合演習	2	
				エクスターンシップ	1	
				リーガル・クリニック	1	
				担当計	8.1	
実・み	教授	法曹	26.1	法システム概論	0.1	オムニバス
				法曹倫理1	1	オムニバス
				法曹倫理2	1	オムニバス
				民事訴訟実務基礎	2	
				ローヤリング	2	
				民事法総合演習	2	
				エクスターンシップ	1	
				リーガル・クリニック	1	
				担当計	10.1	
実・み	教授	法曹	20.1	法システム概論	0.1	オムニバス
				刑事訴訟実務基礎	2	
				ローヤリング	2	
				刑事法総合演習	2	
				エクスターンシップ	1	
				リーガル・クリニック	1	
				担当計	8.1	

(出典：大学での集計)

資料3-1-④-C 教授会の構成員

<p>広島大学大学院法務研究科教授会内規 (趣旨) 第1条 この内規は、広島大学部局運営規則(平成16年4月1日規則第31号。以下「規則」という。)第13条の規定に基づき、広島大学大学院法務研究科(以下「研究科」という。)の教授会の運営に関し必要な事項を定めるものとする。 (組織) 第2条 教授会は、次に掲げる構成員で組織する。 (1) 研究科長 (2) 副研究科長 (3) 研究科長補佐 (4) 教授(前3号に規定する者を除く。)</p>
---

(出典：広島大学大学院法務研究科教授会内規)

参照資料：\*別添資料3-1-②-1 広島大学教員選考基準規則  
別紙様式 大学現況票

\* 別添資料3-1-②-1については、広島大学公式ウェブサイト「広島大学規則集」を参照してください。  
(<http://home.hiroshima-u.ac.jp/~houki/reiki/aggregate/catalog/index.htm>)

【分析結果とその根拠理由】

専門職学位課程において必要な専任教員数(実務の経験を有する教員を含む。)を確保している。

また、教員の選考基準、教員選考についての基本指針を設け、教員の質を確保している。

実務経験を有する教員のうち、いずれのみなし専任教員も年間6単位以上の授業科目を担当するとともに、教授会の構成員として組織運営に参画している。

以上により、専門職学位課程において、必要な専任教員(実務の経験を有する教員を含む。)を確保している。

観点 3-1-⑤： 大学の目的に応じて、教員組織の活動をより活性化するための適切な措置が講じられているか。

【観点に係る状況】

教育研究活動の促進のため、本学の教員採用は、広島大学における教員選考についての基本指針（前掲資料 3-1-②-C）に基づいて行い、公募制を原則としている。また、資料 3-1-⑤-A に示す「広島大学男女共同参画宣言」に基づいて実施している積極的改善措置として、性別のバランスへの配慮に関する目標を定め、その実施に努めている（資料 3-1-⑤-B）。

専任教員数及び女性教員の割合、外国人教員の任用状況は、資料 3-1-⑤-C に示すとおりである。専任教員の年齢構成は、資料 3-1-⑤-D に示すとおりである。教員の任期制の導入状況は、別添資料 3-1-②-2 のとおりである。

サバティカル制度については全学的に規則を定めており、その取得状況は資料 3-1-⑤-E に示すとおりである。優秀教員評価制度の導入状況は、資料 3-1-⑤-F に示すとおりである。

資料 3-1-⑤-A 広島大学男女共同参画宣言

<p>広島大学男女共同参画宣言</p>
<p>男女は、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画し、政治的、経済的、社会的及び文化的利益を等しく享受する権利を有するとともに、そのような社会とともに創り出す責務を負う。平成 11 年 6 月に公布・施行された男女共同参画社会基本法においても、男女共同参画社会の実現は、「21 世紀の我が国社会を決定する最重要課題」と位置付けられており、この方針の実現のため、平成 17 年 12 月に男女共同参画基本計画（第 2 次）が閣議決定されている。</p> <p>我が国においては、日本国憲法に個人の尊重と法の下での平等がうたわれ、これまでも男女平等の実現に向けた様々な取組が、国際社会の取組とも連動しつつ進められてきた。しかし、長い歴史の中で形成された性別による差別的取扱いや固定的な社会通念は、教育・研究の分野においても様々な形態で依然として存在する。知の拠点としての大学は、知の生産のみならず次世代の教育と社会的文化的価値の創造を担う重要な機関であるがゆえに、男女の特性を認識しつつ、男女間の格差を是正し、構成員一人一人の個性と能力が十分発揮できる組織であることを示す社会的責務を有する。</p> <p>広島大学は、その前身の一つである広島師範学校において明治 15 年にいち早く女子部を併設し、教育界に多くの優れた女性の人材を輩出してきた。さらに、昭和 4 年に設置された広島文理科大学においても設置当初から女子学生を受け入れ、戦前から高等教育における男女共学を実現してきた。この歴史に体现されている精神をさらに発展させ、男女共同参画の今日的課題に取り組んでいくこととしたい。</p> <p>また、広島大学が目指す「世界トップレベルの特色ある総合研究大学」を実現するためにも、大学における男女の対等な参画をより一層推進することによって、個人がその個性と能力をいかんなく発揮できる風土を創出することが最重要課題である。</p> <p>以上の観点から、広島大学は、男女共同参画基本計画（第 2 次）の趣旨を十分に踏まえつつ、次の基本方針を基に男女共同参画を推進し、男女共同参画社会の構築に積極的に寄与することを宣言する。</p> <p>&lt;基本方針&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育・研究・就業の場における男女平等の推進</li> <li>2 性別に基づく差別や排除を助長する制度・慣行の見直し・改善</li> <li>3 大学運営における意思決定への男女共同参画の推進</li> <li>4 家庭生活と教育・研究・就業とを両立させるための男女への支援</li> <li>5 地域社会・国際社会との連携を通じての男女共同参画の推進</li> <li>6 男女共同参画の啓発活動と教育研究の推進</li> </ol> <p>平成 18 年 10 月 17 日</p> <p style="text-align: right;">広島大学</p>
<p>（出典：本学ウェブページ <a href="http://www.hiroshima-u.ac.jp/sankaku/sengen/index.html">http://www.hiroshima-u.ac.jp/sankaku/sengen/index.html</a>）</p>

資料 3-1-⑤-B 男女共同参画のための積極的改善措置

<p>○広島大学の取組み</p> <p>広島大学では、女性教員の割合を平成 22 年 4 月までに 11.5% 以上にすることを目標としています。この目標を達成するための具体策は次のとおりです。</p>
---

○教員・研究員の公募文書に男女共同参画を推進していることを明示

公募文書に「評価において同等と認められた場合は女性を採用します。」旨の文書を記載することが、平成19年9月25日の教育研究評議会で決定されました。

○本学の方針として、次の二つの方法を認めています。(平成20年3月11日教育研究評議会)

- (1) 本来、公募により後任補充すべき職に、適任の女性候補者がいる場合は、各部局等の教授会等の判断により公募によらず女性教員を採用する。
- (2) 教育研究体制を充実強化する必要がある分野に、適任の女性候補者がいる場合は、各部局等の教授会等の判断により学長裁量分(時限付き)の措置を受けた上で女性教員を採用する。

○女性教員採用割合の目標値の設定

各部局等において女性教員採用割合の目標値が設定され、平成20年5月20日の教育研究評議会で決定されました。

(出典：本学ウェブページ <http://www.hiroshima-u.ac.jp/sankaku/kaizen/index.html>)

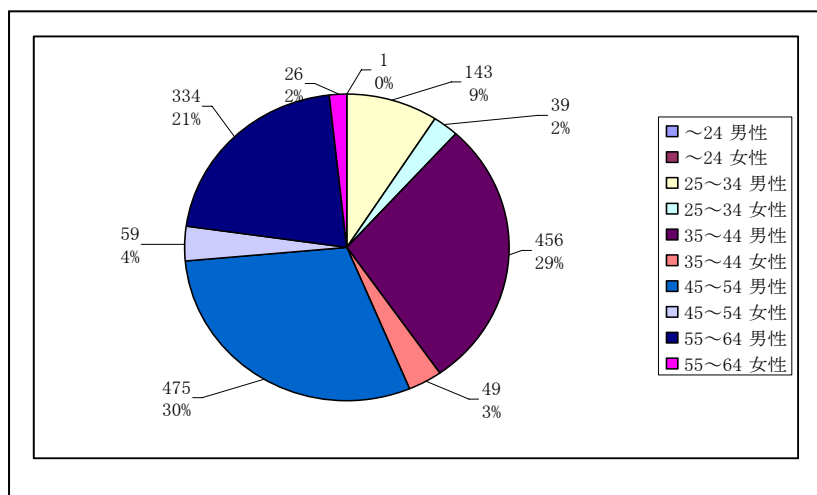
資料3-1-⑤-C 専任教員に占める女性教員及び外国人教員の割合(平成21年5月1日現在)

部局等名	専任教員数		女性教員の割合 (%)	外国人教員任用状況	
	男性	女性		教員数	割合(%)
総合科学研究科	107	15	12.3	6	4.9
文学研究科	52	6	10.3	—	—
教育学研究科	156	33	17.5	1	0.5
社会科学部	68	6	8.1	1	1.4
理学研究科	148	8	5.1	—	—
先端物質科学研究科	52	2	3.7	1	1.9
保健学研究科	29	24	45.3	2	3.8
工学研究科	200	3	1.5	7	3.4
生物圏科学研究科(*1)	73	3	3.9	—	—
医歯薬学総合研究科	222	39	14.9	5	1.9
国際協力研究科	32	1	3.0	2	6.1
法務研究科	14	2	12.5	—	—
原爆放射線医科学研究所	42	6	12.5	2	4.2
病院	102	7	6.4	—	—
センター等	112	18	13.8	12	9.2
計	1,409	173	10.9	39	2.5

\*1 生物圏科学研究科には生物生産学部を含む。

(出典：大学での集計)

資料3-1-⑤-D 専任教員の年齢構成(平成21年5月1日現在)



部局等名	専任教員数		～24		25～34		35～44		45～54		55～64	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
総合科学研究科	107	15			4	1	23	4	39	7	41	3
文学研究科	52	6			2	1	5	2	24	3	21	
教育学研究科	156	33			15	7	32	5	58	11	51	10
社会科学研究科	68	6			7	1	9	3	28	1	24	1
理学研究科	148	8			10	3	59	3	55	2	24	
先端物質科学研究科	52	2			3		28		14		7	2
保健学研究科	29	24			7	7	4	6	10	7	8	4
工学研究科	200	3			38	1	70	1	47		45	1
生物圏科学研究科(*1)	73	3			4	1	18	1	29		22	1
医歯薬学総合研究科	222	39	1		26	8	82	11	71	16	42	4
国際協力研究科	32	1			4		11		7	1	10	
法務研究科	14	2			1		2	1	7	1	4	
原爆放射線医科学研究所	42	6			6	2	15	2	13	2	8	
病院	102	7			4	3	58	2	35	2	5	
センター等	112	18			12	4	40	8	38	6	22	
計	1409	173	1		143	39	456	49	475	59	334	26
%	89.1	10.9	0.1		9.0	2.5	28.8	3.1	30.0	3.7	21.1	1.7
	100.0		0.1		11.5		31.9		33.7		22.8	

\*1 生物圏科学研究科には生物生産学部を含む。

(出典：大学での集計)

資料3-1-⑤-E 広島大学における教員のサバティカル研修の取得状況

年度	部局等名	職名、人数
平成19年度	理学研究科	教授、1名
平成20年度	総合科学研究科	教授、1名
	教育学研究科	教授、1名
平成21年度	教育学研究科	教授、1名
	工学研究科	教授、1名

(出典：大学での集計)

資料3-1-⑤-F 優秀教員評価制度の導入状況

部局等	導入している優秀教員評価制度の概要
全学	<p>広島大学長表彰</p> <p>○目的 職員が大学の業務に関し、特に功労があつて他の模範とするに足りると認められる場合に、これを表彰する。</p> <p>○表彰の種類・対象者 学長表彰は、次の各号のいずれかに該当する広島大学の発展に貢献した役員、職員及び学外の個人並びにこれらの者を構成員とする団体に対して行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 社会活動において、顕著な功績があつたと認められるもの</li> <li>(2) 教育研究活動において、顕著な功績があつたと認められるもの</li> <li>(3) 課外活動の振興に顕著な功績があつたと認められるもの</li> <li>(4) 医療活動において、顕著な功績があつたと認められるもの</li> <li>(5) 教育研究等支援活動において、顕著な功績があつたと認められるもの</li> <li>(6) 大学改革の推進等において、顕著な功績があつたと認められるもの</li> <li>(7) その他前各号と同等の功績等により学長表彰に値すると認められるもの</li> </ol> <p>(参照資料：別添資料3-1-⑤-2 広島大学長表彰要項)</p>
医学部	<p>学士課程教育に優れた教育効果をあげた者や学生の課外活動の支援に優れた貢献をした者などに対して個人又は団体に顕彰を行っている。平成20年度は2名の教員を顕彰した。(平成15年度から)</p> <p>(参照資料：別添資料3-1-⑤-3 広島大学医学部教員顕彰内規)</p>
工学研究科	<p>工学研究科・工学部において毎年、教育の新しい試みと創意に対し顕彰を行っている。</p> <p>若手教員を中心に平成19年度は4グループ、平成20年度は2グループに対して顕彰を行った。</p> <p>(参照資料：別添資料3-1-⑤-4 広島大学大学院工学研究科・工学部教育顕彰実施要項)</p>
医歯薬学総合研究科	<p>教員顕彰内規を平成20年11月27日に制定し、平成20年度は3名に対して表彰を行った。</p> <p>(参照資料：別添資料3-1-⑤-5 広島大学大学院医歯薬学総合研究科教員顕彰内規)</p>



部局等	導入している優秀教員評価制度の概要
国際協力研究科	教育において顕著な業績をあげた教員3人を選考し、インセンティブとして各教員へ研究科経費より研究費30万円を支援した。(参照資料：別添資料3-1-⑤-6 平成19年度 個人評価の実施について) (出典：大学での集計)

参照資料：\*別添資料3-1-⑤-1 広島大学における教員のサバティカル研修に関する規則  
 別添資料3-1-⑤-2 広島大学長表彰要項  
 別添資料3-1-⑤-3 広島大学医学部教員顕彰内規  
 別添資料3-1-⑤-4 広島大学大学院工学研究科・工学部教育顕彰実施要項  
 別添資料3-1-⑤-5 広島大学大学院医歯薬学総合研究科教員顕彰内規  
 別添資料3-1-⑤-6 平成19年度 個人評価の実施について  
 \*別添資料3-1-②-2 広島大学の教員の任期に関する規則

\* 別添資料3-1-⑤-1, 3-1-②-2については、広島大学公式ウェブサイト「広島大学規則集」を参照してください。  
 (<http://home.hiroshima-u.ac.jp/houki/reiki/aggregate/catalog/index.htm>)

【分析結果とその根拠理由】

本学の教員採用にあたっては、広島大学における教員選考についての基本指針に基づき、教育と研究の一層の充実を図るため、全学で公募制を原則としている。また、男女共同参画の積極的推進、任期制、サバティカル研修制度、優秀教員評価制度の導入など、教員の活動をより活性化するための適切な措置を講じている。

以上により、大学の目的に応じた教員組織の活動をより活性化するための適切な措置を講じている。

観点3-2-①： 教員の採用基準や昇格基準等が明確かつ適切に定められ、適切に運用がなされているか。特に、学士課程においては、教育上の指導能力の評価、また大学院課程においては、教育研究上の指導能力の評価が行われているか。

【観点に係る状況】

教員の採用、昇任の資格審査基準等は、広島大学教員選考基準規則(別添資料3-1-②-1)に定めており、部局等の教員の選考基準に関し必要な事項は、部局の教育研究の特性に配慮して各部局において定めている。

各部局では、広島大学における教員選考についての基本指針(前掲資料3-1-②-C)に基づいて、教授会等の下に選考委員会を設置し、教育歴や研究業績等の審査及び面接やプレゼンテーション能力の審査によって、選考を行っている。教授、准教授、講師及び助教の採用、昇任に際しては、当該教員が担当することになる学士課程に関しては、資料3-2-①-Aに示すように、教育上の指導能力、大学院課程に関しては資料3-2-①-Bに示すように、教育研究指導能力を含めた基準を定めており、これらに基づいた採用や昇任を実施している。

資料3-2-①-A 学士課程における資格審査基準等と教育上の指導能力に関する評価基準等

学部名	資格審査基準等(上段)、指導能力に関する評価基準(下段)	根拠資料・データ
総合科学部	教員の選考は、人格及び識見ともに優れた者について、その研究業績、教育業績及び教授能力などを総合的に判断して行う。 教員の選考に当たっては、本研究科の理念及び目標に基づき、原則として公募制により国内外を問わず広く人材を求めるものとする。	広島大学大学院総合科学研究科教員選考基準内規
	教員選考に際しては、研究業績に加えて、教育業績及び教授能力、管理運営・社会貢献などの実績及び能力、並びに学際的研究への関心等を考慮し、総合的に審査する。 教育業績とは「教科書、その他の教育実績」をいう。 職種ごとに審査基準を定めている。	広島大学大学院総合科学研究科教員選考における審査基準

学部名	資格審査基準等(上段), 指導能力に関する評価基準(下段)	根拠資料・データ
文学部	教員の選考は, 人格及び識見ともに優れた者について, その研究業績, 教育業績及び教授能力などを総合的に判断して行う。	広島大学大学院文学研究科 教員選考基準内規
	教員の任用は, 原則として公募とする。 明確な選考基準に従った人事を行う。	広島大学大学院文学研究科 教員選考基準の基本的な考え方
教育学部	教員となることのできる者は, 人格及び識見ともに優れ, かつ, その職務に応じた高度の教育研究上の能力を有すると認められる者とする。	広島大学大学院教育学研究科 教員選考基準内規
	教員選考は, 原則として公募制による。 教員選考は, 研究科の理念・目標・将来構想に沿って行い, 研究業績のみならず, 教育業績や社会的貢献等を総合して判断する。	広島大学大学院教育学研究科 教員選考細則
法学部	教員の選考は, 人格及び識見ともに優れた者で, かつ, その研究業績, 教育業績及び教授能力並びに研究上又は研究に通ずる実務上の知識及び経験を総合的に判断して行うものとする。	広島大学大学院社会科学研究科 教員選考基準内規
	教員選考は, 原則として公募制による。	広島大学大学院社会科学研究科 教員選考細則
経済学部	教員の選考は, 人格及び識見ともに優れた者で, かつ, その研究業績, 教育業績及び教授能力並びに研究上又は研究に通ずる実務上の知識及び経験を総合的に判断して行うものとする。	広島大学大学院社会科学研究科 教員選考基準内規
	教員選考は, 原則として公募制による。	広島大学大学院社会科学研究科 教員選考細則
理学部	教員となることのできる者は, 人格, 識見とも優れ, かつ, その担当する専門分野に関し, 極めて高度の教育研究上の指導能力を有すると認められる者とする。	広島大学大学院理学研究科 教員選考基準内規
	教員選考は, 研究科の理念・目標・将来構想に沿って行うとともに, 理学部における教育にも配慮して行う。 教員選考は公募を原則とする。 教員選考は, 研究科教員にふさわしい人格及び識見, 教育能力, 研究能力, その他の必要な能力を総合的に評価して行う。	広島大学大学院理学研究科における 教員選考についての申合せ
医学部	教員の選考は, 人格及び識見ともに優れた者について, その研究業績, 教育業績及び教授能力などを総合的に判断して行う。	広島大学医学部 教員選考基準内規
歯学部	教員の選考は, 人格及び識見ともに優れた者について, その研究業績, 教育業績及び教授能力などを総合的に判断して行う。	広島大学歯学部 教員選考基準内規
	担当領域に関連する分野における教育研究歴の基準を定めている。	広島大学歯学部 教員選考基準内規に関する申合せ
薬学部	教員の選考は, 人格及び識見ともに優れた者について, その研究業績, 教育業績及び教授能力などを総合的に判断して行う。	広島大学薬学部 教員選考基準内規
工学部	教員となることのできる者は, 人格円満, 健康にして, その職に応じた教育研究上の識見と能力を有すると認められる者とする。	広島大学大学院工学研究科 教員選考基準内規
	選考調書において次の内容を確認している。 ・学界ならびに社会における活動 ・教育実績および教育業績 ・教育に関する見解 ・授業能力 ・特記事項	広島大学大学院工学研究科 における教員選考手順申合せ
生物生産学部	教員となることのできる者は, 人格及び識見ともに優れ, かつ, 当該専攻分野に関し, 本研究科における教育を担当するにふさわしい教育研究上の能力を有すると認められる者とする。	広島大学大学院生物圏科学研究科 教員選考基準内規

(出典: 各学部の教員選考基準内規等)

資料3-2-①-B 大学院課程における資格審査基準等と教育研究上の指導能力に関する評価基準等

研究科名	資格審査基準等(上段), 指導能力に関する評価基準(下段)	根拠資料・データ
総合科学研究科	教員の選考は, 人格及び識見ともに優れた者について, その研究業績, 教育業績及び教授能力などを総合的に判断して行う。 教員の選考に当たっては, 本研究科の理念及び目標に基づき, 原則として公募制により国内外を問わず広く人材を求めるものとする。	広島大学大学院総合科学研究科 教員選考基準内規

研究科名	資格審査基準等(上段), 指導能力に関する評価基準(下段)	根拠資料・データ
	<p>教員選考に際しては、研究業績に加えて、教育業績及び教授能力、管理運営・社会貢献などの実績及び能力、並びに学際的研究への関心等を考慮し、総合的に審査する。</p> <p>職種ごとに審査基準を定めている。</p>	広島大学大学院総合科学研究科 教員選考における審査基準
文学研究科	<p>教員の選考は、人格及び識見ともに優れた者について、その研究業績、教育業績及び教授能力などを総合的に判断して行う。</p>	広島大学大学院文学研究科 教員選考基準内規
	<p>教員の任用は、原則として公募とする。</p> <p>明確な選考基準に従った人事を行う。</p> <p>研究指導教員等の資格の基準を設けている。</p>	広島大学大学院文学研究科 教員選考基準の基本的な考え方
教育学研究科	<p>教員となることのできる者は、人格及び識見ともに優れ、かつ、その職務に応じた高度の教育研究上の能力を有すると認められる者とする。</p>	広島大学大学院教育学研究科 教員選考基準内規
	<p>教員選考は、原則として公募制による。</p> <p>教員選考は、研究科の理念・目標・将来構想に沿って行い、研究業績のみならず、教育業績や社会的貢献等を総合して判断する。</p>	広島大学大学院教育学研究科 教員選考細則
社会科学研究科	<p>教員の選考は、人格及び識見ともに優れた者で、かつ、その研究業績、教育業績及び教授能力並びに研究上又は研究に通ずる実務上の知識及び経験を総合的に判断して行うものとする。</p>	広島大学大学院社会科学研究科 教員選考基準内規
	<p>教員選考は、原則として公募制による。</p>	広島大学大学院社会科学研究科 教員選考細則
理学研究科	<p>教員となることのできる者は、人格、識見とも優れ、かつ、その担当する専門分野に関し、極めて高度の教育研究上の指導能力を有すると認められる者とする。</p>	広島大学大学院理学研究科 教員選考基準内規
	<p>教員選考は、研究科の理念・目標・将来構想に沿って行うとともに、理学部における教育にも配慮して行う。</p> <p>教員選考は公募を原則とする。</p> <p>教員選考は、研究科教員にふさわしい人格及び識見、教育能力、研究能力、その他の必要な能力を総合的に評価して行う。</p>	広島大学大学院理学研究科に おける教員選考についての申合せ
先端物質科学研究科	<p>教員となることのできる者は、人格及び識見とも優れ、かつ、その担当する専門分野に関し高度の教育研究上の指導能力を有すると認められる者とする。</p> <p>教員の選考に当たっては、研究科の理念及び目標に基づき、原則として公募制により国内外を問わず広く人材を求める。</p>	広島大学大学院先端物質科学研究科 教員選考基準内規
	<p>経歴並びに教育、研究及び社会貢献に関する実績を調査したうえで、教育資格を認定する。</p>	大学院先端物質科学研究科における 教員の選考方法についての申合せ
保健学研究科	<p>教員の選考は、人格及び識見ともに優れた者について、その研究業績、教育業績及び教授能力などを総合的に判断して行う。</p>	広島大学大学院保健学研究科 教員選考基準内規
工学研究科	<p>教員となることのできる者は、人格円満、健康にして、その職に応じた教育研究上の識見と能力を有すると認められる者とする。</p>	広島大学大学院工学研究科 教員選考基準内規
	<p>選考調書において次の内容を確認している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学界ならびに社会における活動</li> <li>・教育実績および教育業績</li> <li>・教育に関する見解</li> <li>・授業能力</li> <li>・特記事項</li> </ul>	広島大学大学院工学研究科における 教員選考手順申合せ
生物圏科学研究科	<p>教員となることのできる者は、人格及び識見ともに優れ、かつ、当該専攻分野に関し、本研究科における教育を担当するにふさわしい教育研究上の能力を有すると認められる者とする。</p>	広島大学大学院生物圏科学研究科 教員選考基準内規
医歯薬学総合研究科	<p>教員の選考は、人格及び識見ともに優れた者について、その研究業績、教育業績及び教授能力などを総合的に判断して行う。</p>	広島大学大学院医歯薬学総合研究科 教員選考基準内規
国際協力研究科	<p>教員となることのできる者は、人格及び識見ともに優れ、かつ、その担当する専門分野に関し、高度の教育研究上の指導能力があると認められる者とする。</p> <p>教員の選考に当たっては、研究科の理念及び目標に基づき、英語による講義、指導ができる者とし、原則として公募制により国内外を問わず広く人材を求める。</p>	広島大学大学院国際協力研究科 教員選考基準内規
法務研究科	<p>教員の選考は、各職の基準に従い、その担当する専門分野に関する教育能力及び研究上又は研究に通ずる実務上の見識をその者が有するかどうかを判定することにより行う。</p>	広島大学大学院法務研究科 教員選考基準内規

(出典：各研究科の教員選考基準内規等)

参照資料 : \*別添資料3-1-②-1 広島大学教員選考基準規則

\* 別添資料3-1-②-1については、広島大学公式ウェブサイト「広島大学規則集」を参照してください。  
(<http://home.hiroshima-u.ac.jp/~houki/reiki/aggregate/catalog/index.htm>)

【分析結果とその根拠理由】

教員の採用、昇任の資格審査基準等は、教員の選考基準及び教員選考についての基本指針を設けるとともに、各部局において当該教員の担当ごとに、学士課程に関しては教育上の指導能力、大学院課程に関しては教育研究指導能力を中心とした基準を適切に定め、評価を実施しており、これらに基づいた採用や昇任を実施している。以上により、教員の採用基準や昇格基準等を明確かつ適切に定め、適切に運用している。

観点3-2-②： 教員の教育活動に関する定期的な評価が行われているか。また、その結果把握された事項に対して適切な取組がなされているか。

【観点に係る状況】

学生による授業評価アンケートは、教養教育を始めとして全ての学部・研究科等が実施している。授業評価アンケートによる評価結果は、教育室において整理し、統計分析結果を各部局及び教員個人に配付している。

また、この評価結果は資料3-2-②-Aのとおり、ウェブページを通じて公表している。

この評価結果を基に、各部局では資料3-2-②-B及び資料3-2-②-Cのとおり、授業内容の改善等に取り組んでいる。

教員の教育活動に関する評価結果に基づき、優れた教育の成果を挙げた者は、広島大学長表彰（前掲資料3-1-⑤-F、別添資料3-1-⑤-2）において、表彰されることもある。

また、本学では、「広島大学における教員の個人評価の基本方針」（別添資料3-2-②-1）に沿って、平成19年度（平成18年度実績分）より教員の個人評価を実施している。教員は前年度分の教育・研究・社会貢献・大学運営について、部局で定めた項目に沿って自己点検・評価を行い、報告書として提出している。

資料3-2-②-A 学生による授業評価アンケート結果

学生による授業評価 URL <http://www.hiroshima-u.ac.jp/top/houjin/hyouka/jikotenken/index.html>

(出典：本学ウェブページ)

資料3-2-②-B 各学部における授業内容の改善状況等

学部名	改善状況等
総合科学部	講義別授業評価アンケート結果は、授業担当教員へ送付し、各教員が授業内容等の改善に役立っている。具体的事例は次のとおりである。 ・プログラムの教育指針を、学生にしっかりと理解できるかたちで提示した上で、講義、演習、実習などを組織的に展開するよう工夫し、学生の満足度を高めた。 ・プログラムでの専門教育科目について、基本的に重要な事項を精選し、適切な教科書を選択することで、基礎的学力を充実させるようにした。 また、部局別・教育組織別授業評価アンケート結果は、プログラム主任へ送付し、自己点検・評価等へ活用している。
文学部	授業評価アンケート結果を教務委員会で分析したうえで、各講座（コース）に持ち帰り、各講座（コース）会議に諮り、情報の共有を図っている。 具体的改善例は次のとおりである。 1. アンケートを実施した授業について「あなたはこの授業にどのくらいの割合で出席しましたか」、「授業の予習・復習をよくしましたか」、「総合的に判断して、この授業に満足しましたか」の3軸により、3次元クロス集計を行い、その結果を学部ウェブサイト上に学内限定で公開している。また、それについての担当教

学部名	改善状況等
	<p>員のコメントを付すことができるようになってきている。この仕組みによって授業評価の教員間相互比較を可能とし、文学部全体としての授業内容の向上に役立っている。</p> <p>2. シラバス作成時には、前年度授業の進捗や学生の理解度・満足度等に基づいて、その内容を見直し適正化するよう各教員に指示している。</p> <p>3. プログラム教員会においては、教務委員が授業アンケートの集計結果を広島大学、文学部、当該プログラム単位の説明し、プログラムとして改善すべき課題を見いだすよう努めている。</p> <p>4. 情報実習室 (B202) の情報機器について機能・容量の向上が学生より求められていたが、平成 19 年度に設備を更新した結果、機器の操作がスムーズとなり、その教室で実施する実習・実験科目履修者の満足度が高まった (実習・実験科目は授業アンケート対象科目外であり、データとして示すことはできない。)</p>
教育学部	<p>講義別授業評価アンケートの結果は、各教員にフィードバックされ、授業についての教員の認識を高めるとともに、授業形態 (グループ学習の導入) や授業方法 (視聴覚機器の使用、教師と学生との意見交流の機会を増やすなど) の改善に利用されている。また、講座ごと、あるいは学部全体の集計結果を講座にフィードバックし、カリキュラムや授業方法について比較検討を行い、その検討結果を研究・評価部会で報告するなど、相互啓発に努めた。</p>
法学部	<p>アンケート実施教員へ授業科目ごとに配付している。また、授業評価アンケート結果の各項目間に関連する因果モデルの解析結果を FD を開催して検討し、どのような経路を経て授業に対する満足度が決まるかについて理解を共有した。同アンケートの結果によると、授業に「満足」すると回答する者が毎年、8割を大きく超え、平成 16 年度の 83.5% (昼・夜間両コースの平均) から平成 19 年度は 88.7% に上昇している。</p>
経済学部	<p>学期ごとに集計したアンケート結果を担当教員に送付している。各教員はアンケート結果と自由記述欄を参考にして個別に評価を検討し、教育内容・方法の改善に努めている。</p> <p>具体的事例としては、次のとおりである。</p> <p>1. 「マイクロ経済学」においてホワイトボードの図が入り組んでいるので家に帰って復習しても良く分からない」とのコメントがあった。従って授業をビデオに収録し、その DVD を学生の復習のための利用に供している。</p> <p>2. 「経済発展と環境」でテレビ番組を収録し授業で使ったところ好評であったが、ビデオの音声に教員の声の混じると分かりにくいなどのコメントがあった。従って、利用するビデオ (DVD) の中身・使い方について改善を迫っている。</p> <p>3. 「ホワイトボードの字がかすれて見えない」などのコメントがあることが教員から指摘されたので、各教員に授業に向う時に新しいマーカーを持っていくように注意している。</p>
理学部	<p>アンケートを実施した担当教員へ授業評価アンケート結果を配付し、学部全体の集計結果は、科内評価委員会委員に配付し、評価授業評価アンケート (冊子) を毎期作成している。</p> <p>具体的事例は、次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数教育 (演習等) を複数グループで実施した際の点数評価の統一</li> <li>・黒板への記載文字の大きさ</li> <li>・受講人数に合った講義室への変更</li> </ul>
医学部	<p>教務改革 WG を設置して、授業評価アンケート結果も踏まえて、主専攻プログラムの内容を検討し、コアカリキュラムに基づいて改革を行っている。</p> <p>これまでの改革状況：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 各小講座の担当時間の再配分</li> <li>② 教員間 (旧小講座間) の教育内容の相互確認と調整</li> <li>③ 実習時間の拡大</li> <li>④ 試験日程の調整と計画的追試験の実施</li> <li>⑤ テュートリアル教育の教材検討</li> <li>⑥ TA の積極的活用による充実した授業補助</li> </ol>
歯学部	<p>授業評価アンケートおよび歯学部独自に実施している実習評価アンケートは、科目ごとの統計分析結果と学生からの意見を各担当教員に配布している。各教員はアンケート結果と自由記述欄を参考にして個別に評価を検討し、教育内容・方法の改善に利用している。また、学生からの要望が多かった実習設備の更新を行った。</p> <p>具体的改善事例は次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合科目について、より詳細なシラバスを作成して学生に配布すると共に、授業内容の充実を図った。</li> <li>・新たな授業科目 (成人・高齢者歯科学、障害者歯科学、口腔インプラント学) を開設した。</li> </ul>
薬学部	<p>アンケートの結果は集計して各教員にフィードバックされ、授業についての教員の認識を高めるとともに、カリキュラムや授業方法の改善 (例えば一部授業科目を集中講義にする、声が小さいとの声にはマイクを使用するよう徹底させるなど) に利用されている。</p>
工学部	<p>工学部全体で平成 18 年度から学生による授業評価アンケートに対して各講義担当者が授業改善計画書を作成することとしている。また次のセメスター開講時に、計画書に入力した内容にもとづいて、該当科目の当期の講義方針等を学生にアナウンスすることとしている。</p> <p>授業評価アンケート等の結果、把握した事項について各課、教育プログラムでは例えば以下のような授業改</p>

学部名	改善状況等
	<p>善に向けた具体的な取組を実施している。</p> <p>(具体的取組例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第一類の「機械工学実験Ⅰ,Ⅱ」では、平成20年度に実験内容と開設セメスターの見直しを議論した。共に授業評価アンケートにも指摘があった。重複していた実験内容を省き、時代の要請に応じた新内容を新たに設ける。また、7セメスターから6セメスターへ開設期も改善する。平成21年度から実施する。 また、設計製図とCADについても開設時期を検討し、2年次の講義を1年次へ移動し、早くから専門教育を行うことで、より効果的に4年間を使用できるように改善する。平成21年度より実施する。</li> <li>第二類の「熱・統計力学」においては、授業内容に沿った小テストを毎回実施し、その結果から学生が理解できていない所を把握した。それに基づいて、理解が不十分な点を次回授業時に解説すると共に、その後の授業の進捗や内容を見直し、学生が着実に授業内容を理解できるように努めている。このような改善の結果、学生の満足度平均が2.7 (H18) から3.4 (H20) に向上した。</li> <li>第三類応用化学プログラムの「高分子工業化学」において講義開設当初は、板書が読みにくい上に消すのが早すぎるなど不評だったので出来る限り丁寧に書くように努めた。また、p.p.t. スライドの写しを配布しているが見つらいなどの意見が多くあったのでチェックの上徐々に改善した。授業の性格、内容を考慮して、身の回りで広く使用されている汎用製品から先端的な精密製品たとえば人工心臓などの実際例の回覧を徐々に増やし、興味を持てるように努めた。以上のような取組が功を奏し、総合評価の点数は、3.0 (H17) → 3.2 (H18) → 3.3 (H19) と改善した。</li> <li>生物有機化学の学生アンケートで、黒板の字が読みにくいという指摘があったので、次年度からプリントを使うように授業内容を改善したところ、学生アンケートの総合評価も3.3から3.6に上昇した。</li> <li>第四類社会基盤環境プログラムの「人と環境と社会基盤」では、社会基盤の重要性を各専門分野の教員がオムニバス形式で講義を行う形式としていた。授業評価アンケートでは、将来のことについてよく分かった、いろいろなことが学べてよかったといった肯定的な意見が出される一方、内容が豊富すぎるために何が重要なかがはっきりわからなかったといった否定的な意見も寄せられた。そのため、社会基盤に関連するあるテーマを題材として、それに関連付けた講義を行うとともに学生各自に社会基盤整備を計画してもらい、自分たちで社会基盤がどのようなものかを体験し学ばせる形式に改善した。</li> <li>第四類(建築学コース)で開講している「耐震工学Ⅰ」では、復習がしにくいという指摘に対して、毎回資料を配布、その資料のあとに課題をつけて、講義時間中に演習を行なった。授業時間内に出来ないものは持ち帰り、宿題として、学生自身が具体的に理解度を確認できるようにした。また、「建築構造設計」では、講義内容が解り難いという指摘に対して、テキストおよび配布資料に基づいて実際の設計手順が分かるようにしている。とくに法律との関連を含めて構造設計の実務を体得できるように改善した。「材料力学Ⅰ,Ⅱ」では、例題解説および演習課題の数を増やして欲しいという要望があり、増加させた。</li> </ul> <p>また、中には次の例のように学生による授業評価アンケート結果等をもとに改善を行い、新たな講義を開講するに至った例もある。</p> <p>(新たな講義の開設例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第四類輸送機器環境工学プログラムでは、工学知識の教育に加えて技術者として総合的な能力の養成を特に重視している。この実現のために工学的手法を用いて実際にモノを計画・設計・製作・性能評価させる創成型プロジェクト科目を教育の柱に据えている。その代表科目である「設計・生産プロジェクト」ではPaper Bicycle Project を行い、授業評価アンケートにおいてH18年度3.8、H19年度3.5と常に安定した高評価を得ている。また、学外では、企業の外部評価アドバイザー及び学会からも実践的教育として、高い評価を得ている。このような経緯から、本プログラムでは、創造型プロジェクト授業のさらなる拡充を図ることを目的として、新たに創成型プロジェクトを5科目新設した。その結果、輸送機器環境工学プロジェクトⅠ(3.3)、Ⅱ(3.8)、Ⅲ(3.7)、特別研究プロジェクトⅠ(3.6)、Ⅱ(3.7)という高評価を得るに至っている。このことから、モノづくりに関わる授業・カリキュラムの改善効果が上がっているものと判断できる。</li> </ul> <p>このほか、JABBE認定を受けている教育プログラムではプログラム独自の教育活動評価および改善に向けた取組を行っている。例えば、第三類化学工学プログラムでは、JABEEの要求に基づいたPDCA組織(教育改善委員会、教育評価委員会、学生評価委員会、JABEE統括委員会、プログラム評価委員会)において種々の評価・改善活動を継続的にやっている。</p> <p>各セメスターに全体で実施している授業評価アンケート以外にも卒業時にアンケートを行い、各学習・教育目標に対する学生自身の達成度・教育の質・コメントと、卒業研究の指導内容・設備環境・テーマの有益性・学習過程と修得した能力の有益性などを調査し、これを評価・検討することで様々な改善を実施している。</p> <p>その結果、学生の授業評価アンケートの平均値が4年間向上し続けている。(化学工学プログラムの必修科目の授業アンケートの平均値がH17からH20まで3.05→3.14→3.18→3.21と上昇している。)</p>
生物生産学部	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 授業評価アンケート結果点数の上位5科目の担当者に依頼し、講義について工夫している点などを部局構成員に案内させた(メールで配信)。</li> <li>2) 授業評価アンケートの上位5科目の講義をビデオで撮影し、Web上で部局構成員のみに限って閲覧させる試みも行った(情報メディア教育研究センターのHP)。</li> </ol>

学部名	改善状況等
	3) オムニバス講義以外の単独教員による講義に対する授業評価アンケートに対して、その教員の今後の改善点や改良点などを提出させた(自己点検評価報告書に記載)。

(出典：各学部での自己点検・評価)

資料3-2-②-C 各研究科における授業内容の改善状況等

研究科名	改善状況等
総合科学研究科	<p>講義別授業評価アンケート結果は、授業担当教員へ送付し、各教員が授業内容等の改善に役立てている。</p> <p>具体的改善事例は次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内容については、高い専門性を維持しながら専門外の学生にも理解できるよう工夫した。また、留学生にも分かりやすい提示の仕方を工夫するなどした。</li> <li>・オムニバスの授業内容の関連性を高めるとともに、学生参加型の授業形式へと転換した。</li> </ul> <p>また、研究科別・講義別授業評価アンケート結果は、教務委員会委員長等へ送付し、自己点検・評価等へ活用している。</p>
文学研究科	<p>文学部全体の授業評価アンケート結果を教務委員会で分析したうえで、各講座(コース)に持ち帰り、各講座(コース)会議に諮り、情報の共有を図っている。また、各委員には個別の結果を送付し、各教員が授業内容等の改善に役立てている。</p> <p>具体的事例は次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. シラバス作成時には、前年度授業の進度や学生の理解度・満足度等に基づいて、その内容を見直し適正化するよう各教員に指示している。</li> <li>2. 講座会議において、教務委員が授業アンケートの集計結果を広島大学、文学研究科、当該教育研究分野単位に説明し、分野として改善すべき課題を見いだすよう努めている。</li> </ol>
教育学研究科	<p>アンケート結果を担当教員及び講座にフィードバックすることによって、教育内容・方法の見直しに資することに努めた。その結果、例えば、学生の声に基づき、授業の難易度を調整したり、個々の学生に適切な内容(教材の選定を含む。)に見直したりして、できるだけ学生の個人差に配慮した授業内容・授業方法となるよう、工夫・改善に努めている。また、学生が幅広い視野かつ、より専門的な見地から自分自身の研究を広め、深めることができるよう、複数教員で授業を開講したり、博士課程前期の授業に博士課程後期の学生を参加させたりするなど、授業形態・方法の改善にも結びつけている。</p>
社会科学研究科	<p>アンケート実施教員へは、授業科目ごとに結果を今後の授業改善の資料として配付している。研究科長、専攻長には、研究科分を配付している。マネジメント専攻は、全体冊子を専攻長室で保管・公開を行っている。</p> <p>具体的改善事例は次のとおりである。</p> <p>法政システム専攻では、一般に留学生が抽象的な法理論を日本語で理解することは難しいと感じることが授業アンケートの結果、明らかになった。そこで、英語の理解できる留学生に対しては、要点を英語で説明するようにしたところ、留学生の理解が深まった。</p> <p>社会経済システム専攻のファイナンス・プログラムにおいて社会人院生や留学生で授業に出席できなかった時、あるいは復習のために「(大学院) ミクロ経済学」の授業をビデオに収め、東千田キャンパス図書館で貸し出し・閲覧させている。</p>
理学研究科	<p>アンケートを実施した担当教員へ授業評価アンケート結果を配付し、各教員が授業内容等の改善に役立てている。また、研究科全体の授業評価アンケート結果は、各専攻長へ配付し、自己点検等へ活用している。</p> <p>具体的改善事例は次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数教育(演習等)を複数グループで実施した際の点数評価の統一</li> <li>・黒板への記載文字の大きさ</li> <li>・受講人数に合った講義室への変更</li> </ul>
先端物質科学研究科	<p>授業評価アンケート結果を授業担当教員に送付し、次年度の授業の参考資料として活用している。</p>
保健学研究科	<p>「教育研究成果報告書」を作成し、フィードバックの意味を兼ね全教員へ配布している。また、毎年実施している学生との協議会において、アンケートを実施し授業関連の指摘事項については研究科長室会議、研究科教育委員会に諮り、改善可能なものについては改善している。</p> <p>具体的改善事例は次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昼夜同等の授業を実施し、14条特例の学生への配慮を行った。</li> <li>・遠隔地で来校不便な学生とネットやメールを使用し指導・助言等の対応をした。</li> </ul>
工学研究科	<p>研究科では平成20年度前期講義分から学部同様、授業評価アンケートに対して各講義担当者が授業改善計画書を作成している。また次のSemester開講時に、計画書に入力した内容に基づいて、該当科目の当期の講義方針等を学生にアナウンスすることとしている。</p> <p>教育活動の評価(授業評価アンケート)結果により把握した事項の具体的な改善に向けた工学研究科全体の取組として、大学院授業を午前中に行って午後を研究に充てること、セミナー科目を新設し研究</p>

研究科名	改善状況等
	<p>室単位でのゼミを実質的な授業とすること、英語コミュニケーション演習を新設し専門英語と英語によるプレゼンテーション能力を向上させることなどの改善を行っている。</p> <p>また、専攻、講座単位等においても例えば以下のような授業内容の改善に向けての取組を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>複雑システム工学専攻の「人間知識情報学特論Ⅱ」において、授業内容に対して学生間の積極的な議論を促すために、どんな平易な質問であっても必ず1つは質問をするというルールと、同時に質問しやすい雰囲気作りに努めて授業を進めたところ、議論が非常に盛り上がり、学生の授業内容に対する興味と理解が深まり学生アンケートの満足度平均が2.4 (H18) から3.5 (H19) に大きく向上した。</li> <li>情報工学専攻の「画像工学特論」では学生アンケートに基づき、授業の内容の専門性を保ちつつ、理解が深まるように基礎的な部分を補い、またレポート課題の難易度を段階的に上げるように工夫した。</li> </ul> <p>その結果、学生アンケートの授業満足度（5段階評価）に関して、2.4 (H18 年度) から 3.6 (H19 年度) に向上した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社会環境システム専攻で開講している「構造非線形力学特論」では、演習課題の数を増やして欲しいという要望があり、増加させた。また、「鉄筋コンクリート特論」では、実際の業務との関連に関する指摘に対して、設計の位置付けを明確にした。学部における講義の復習的要素も含め実務に即した講義とした。</li> </ul>
生物圏科学研究科	<p>授業評価アンケート結果を授業担当教員へ送付している。</p> <p>授業評価アンケート及び修了生へのアンケートを実施し、自己点検・評価報告書を作成して、改善点を抽出している。</p>
医歯薬学総合研究科	<p>授業評価アンケートの結果は、授業担当教員に送付し、授業計画等の参考として活用している。</p>
国際協力研究科	<p>学生による授業評価アンケート調査の結果を当該担当教員へ配布し、今後の授業への対応内容を提出させ「授業評価アンケート調査結果の概要」としてまとめている。</p>
法務研究科	<p>学生の授業評価アンケート結果について、すべてを法務研究科FDにおいて資料配布し、内容を検証し改善策の検討を行っている。その検討結果については、各教員のコメント及び全データとともに学生にフィードバックしている。</p>

(出典：各研究科での自己点検・評価)

参照資料：別添資料3-2-②-1 広島大学における教員の個人評価の基本方針  
別添資料3-1-⑤-2 広島大学長表彰要項

【分析結果とその根拠理由】

学士課程教育（教養教育を含む）又は大学院課程教育について、全ての学部・研究科等において学生の授業評価アンケートを毎年前期と後期で実施している。その分析結果は、各部局及び教員に周知している。また、各部局においても、評価結果を教員にフィードバックし、授業改善に結びつける取組を行っている。

以上により、教員の教育活動に関する定期的な評価を行っており、また、その結果把握された事項に対して適切な取組を行っている。

観点3-3-①： 教育の目的を達成するための基礎として、教育内容等と関連する研究活動が行われているか。

【観点に係る状況】

教員の研究活動と教育内容との関連性について、学士課程においては学科等のカリキュラムごとに、大学院課程においては専攻等のカリキュラムごとに、専門職学位課程においては専攻のカリキュラムに、専攻科においては専攻のカリキュラムに対応して、主なものを資料3-3-①-A～Dに示している。

教育内容と関連する研究活動は、広く多様な形で展開している。



資料3-3-①-A 学士課程における教員の研究活動と担当授業科目

学部名, 学科等名, 教員名	研究活動及び主な研究業績等	授業科目名
総合科学部 総合科学科 窪田 幸子	(代表的な研究活動) 先住民と国家的政策の関係に関する研究 (主要論文等) 1. ジェンダー視点と社会問題の交錯 ーオーストラリア・アボリジニ 2. アボリジニ美術の変貌 3. Planning the local museum- Anthropology and Art in the Post-modern Era	社会生態人類学 地域を科学する 社会生態人類学演習
文学部 人文学科 友澤 和夫	(代表的な研究活動) 産業集積と労働市場に関する地理学的研究 (主要論文等) 1. 生産システムから学習システムへ 2. 工業空間の形成と構造 3. 人材派遣ビジネスの地域的展開	人文地理学概論 社会経済地域論 (地理学) 人文地理学基礎演習
教育学部 第一類(学校教育系) 鈴木 由美子	(代表的な研究活動) 道徳教育に関する研究 (主要論文等) 1. 子どもの道徳的判断の特徴から見た道徳教育の課題 ー「対人葛藤」解決の理由づけの分析ー 2. 子どもの道徳的価値判断における対人関係認識の発達の変容 ー道徳授業におけるワークシートの分析を通してー 3. Method of Moral Education to Foster Human Relationships	道徳教育指導法 教育的関係論
教育学部 第二類(科学文化教育系) 古賀 信吉	(代表的な研究活動) 化学実験教材の開発に関する研究 (主要論文等) 1. 二酸化窒素の噴水実験 2. The Chemical Equilibrium between Nitrogen Dioxide and Dinitrogen Tetroxide. An Introductory Experiment in Chemical Thermodynamics 3. マラカイトの合成と化学実験教材への応用	自然システムの理解 (化学) 化学教材内容論 I 化学教材内容論 II
教育学部 第三類(言語文化教育系) 松崎 寛	(代表的な研究活動) 日本語音声教育に関する研究 (主要論文等) 1. 複合語アクセント規則指導における効果 2. 聞くための日本語教育文法 3. アクセントの体系的教育を目的とした音声評価研究	日本語の音声と発音 日本語技能指導論 日本語学習基礎論
教育学部 第四類(生涯活動教育系) 横田 明子	(代表的な研究活動) 経済社会の変化と生活経済に関する研究 (主要論文等) 1. 医療政策と医療費 2. 生活と家族 3. 経済と消費	生活経済学 家族関係学 消費生活論
教育学部 第五類(人間形成基礎系) 深澤 広明	(代表的な研究活動) 教育方法学・ドイツ教授学の研究 (主要論文等) 1. 学級における授業指導の演劇的構造に関する研究 2. ドイツ教授学の研究動向 3. 学習論としてのプロジェクトアプローチ	教育方法学 II 教育課程・教育方法論 教育方法学課題研究 I
法学部 法学科 三井 正信	(代表的な研究活動) 労働契約法に関する研究 (主要論文等) 1. 企業の社会的権力コントロールと労働契約 2. 労働契約法としての労働基準法 3. 労働契約法と就業規則の不利益変更	労働法 労働法特講 演習 1 演習 2 演習 3 演習 4

学部名, 学科等名, 教員名	研究活動及び主な研究業績等	授業科目名
経済学部 経済学科 千田 隆	(代表的な研究活動) 金融政策に関する研究 (主要論文等) 1. Inflation History and the Sacrifice Ratio 2. Determining Output and Inflation Variability 3. Asymmetric Effects of Money Supply Shocks and Trend Inflation	金融論1 金融論3
理学部 数学科 松本 眞	(代表的な研究活動) 代数の実学的応用に関する研究 (主要論文等) 1. Error Correcting Sequence and Projective De Bruijn Graph 2. A p-adic algorithm for computing the inverse of integer matrices 3. Projective de Bruijn Sequences	代数学II 代数学A ネットワークと代数系
理学部 物理科学科 小 鷲 康 史	(代表的な研究活動) 相対性理論, 宇宙物理学に関する研究 (主要論文等) 1. Tidal effects on magnetic gyration of a charged particle in Fermi coordinates 2. Propagation and Transmission of Alfvén Waves in Rotating Magnetars 3. Gravitational Waves from Relativistic Stars	時空物理学I
理学部 化学科 楯 真 一	(代表的な研究活動) 生体高分子の構造と機能に関する分光学的研究 (主要論文等) 1. Tautomerism of Histidine 64 Associated with Proton Transfer in Catalysis of Carbonic Anhydrase 2. Anisotropic Nuclear Spin Interactions for the Morphology Analysis of Proteins in Solution by NMR Spectroscopy 3. Structure and mode of ligand recognition of the oxidized LDL receptor, LOX-1	先端化学 生体高分子化学
理学部 生物科学科 菊 池 裕	(代表的な研究活動) 発生の分子機構に関する研究 (主要論文等) 1. Sdf1/Cxcr4 signaling controls the dorsal migration of endodermal cells during zebrafish gastrulation. 2. Mtx2 directs zebrafish morphogenetic movements during epiboly by regulating microfilament formation. 3. Analysis of cis-regulatory elements controlling spatio-temporal expression of T-brain gene in sea urchin, <i>Hemicentrotus pulcherrimus</i> .	発生物理学A 発生物理学B 比較発生物学
理学部 地球惑星システム学科 日高 洋 寺田健太郎 高橋嘉夫	(代表的な研究活動) 地球惑星の進化と環境に関する化学的研究 (主要論文等) 1. Ba isotopic signature for early differentiation between Cs and Ba in natural fission reactors 2. Cryptomare magmatism at 4.35 Ga recorded in Kalahari 009 3. Chemical and structural control of the partitioning of Co, Ce, and Pb in marine ferromanganese oxides	放射線と自然科学 固体地球化学I 固体地球化学III 宇宙化学 水圏地球化学

学部名, 学科等名, 教員名	研究活動及び主な研究業績等	授業科目名
医学部 医学科 菊池 章	(代表的な研究活動) 細胞内シグナル伝達機構による細胞機能制御とその異常による病態に関する研究 (主要論文等) 1. Wnt3a and Dkk1 regulate distinct internalization pathways of LRP6 to tune the activation of b-catenin signaling. 2. Caveolin is necessary for Wnt-3a-induced internalization of LRP6 and accumulation of b-catenin. 3. GSK-3b-regulated interaction of BICD with dynein is involved in microtubule anchorage at centrosome.	組織細胞機能学 基礎・社会医学配属実習
医学部 保健学科 岡村 仁	(代表的な研究活動) がん患者や高齢者のQOL向上に関する研究 (主要論文等) 1. Assessment of degree of satisfaction of cancer patients and their families with rehabilitation and factors associated with it—results of a Japanese population 2. Study on the social maturity, self-perception, and associated factors, including motor coordination, of children with attention deficit hyperactivity disorder 3. Study on effects of life review activities on the quality of life of the elderly: a randomized controlled trial	リハビリテーション精神 医学総論 リハビリテーション精神 医学各論 精神疾病論
歯学部 歯学科 高田 隆	(代表的な研究活動) 口腔疾患に関する病理学的研究 (主要論文等) 1. IFN-induced transmembrane protein 1 promotes invasion at early stage of head and neck cancer progression. 2. Aberrant beta-catenin expression and adenomatous polyposis coli gene mutation in ameloblastoma and odontogenic carcinoma. 3. Constitutive phosphorylation of aurora-a on ser51 induces its stabilization and consequent overexpression in cancer.	口腔病理学 口腔病理学基礎実習 口腔病理学演習 口腔病理学実習
歯学部 口腔健康科学科 口腔保健衛生学専攻 天野 秀昭	(代表的な研究活動) 小児の顎・顔面の成長発育, 小児および障害児(者)の歯科医療, 学校歯科保健に関する研究 (主要論文等) 1. 口腔内スキャナ画像のヘルスプロモーションへの応用 2. A Study of an Oral Health Promotion Program for Junior High School Students using an Intra-Oral Scanner System 3. Education of the School of Oral Health Science, Hiroshima University Faculty of Dentistry	発達期系歯科学 チーム歯科医療学 学校歯科保健教育論 修復系歯科学 歯科医療管理学示説A 臨床歯科学概論 小児歯科学 小児歯科学実習 矯正歯科学実習
歯学部 口腔健康科学科 口腔保健工学専攻 二川 浩樹	(代表的な研究活動) 塩基性抗菌ペプチド, 固定化抗菌剤, プロバイオティクスの応用に関する研究 (主要論文等) 1. Research Projects related to Complete Dentures Published in 2006 by Members of the Japan Prosthodontic Society 2. Contribution of Finite Element Modeling to Assessment of Mandibular Movements. 3. Chewing Gum Containing Citric Acid Reduces the Burden of Periodontal pathogens.	歯冠修復保健工学 審美修復学 有床義歯保健工学 顎口腔機能学 ディカルデザイン工学

学部名, 学科等名, 教員名	研究活動及び主な研究業績等	授業科目名
薬学部 薬学科 仲田 義 啓	(代表的な研究活動) 創薬に関する薬理学的研究 (主要論文等) 1. Serotonin (5-HT) induces glial cell line-derived neurotrophic factor (GDNF) mRNA expression via the transactivation of fibroblast growth factor receptor 2 (FGFR2) in rat C6 glioma cells 2. Activation of the neurokinin-1 receptor by substance P triggers the release of substance P from cultured adult rat dorsal root ganglion neurons 3. Possible Involvement of Long Chain Fatty Acids in the Spores of Ganoderma lucidum (Reishi Hoshi) to its Anti-Tumor Activity	薬理学Ⅲ
薬学部 薬科学科 大塚 英 昭	(代表的な研究活動) 生薬学・天然物化学に関する研究 (主要論文等) 1. Constituents of imported Roase fructus 2. Macaflavanones A-G, prenylated flavanones from the leaves of Macaranga tanarius 3. Grevillosides A-F: Glucosides of 5-alkylresorcinol derivatives from leaves of Grevillea robusta	生薬学・天然物薬品化学 日本薬局方演習 (分担) 基礎研究 I, II, III 生薬学・薬用植物学実習
工学部 第一類 (機械システム工学系) 永村 和 照	(代表的な研究活動) 歯車および歯車装置の運転性能向上に関する研究 (主要論文等) 1. トロコイド歯形を用いたピンラック歯車装置の運転性能 2. 特殊歯形歯車の摩耗 3. 外接形歯車ポンプの歯形と運転性能	要素設計Ⅰ 要素設計Ⅱ 機械創成実習
工学部 第二類 (電気・電子・システム・情報系) 餘利野 直 人	(代表的な研究活動) 電力工学に関する研究 (主要論文等) 1. Sensitivity Analysis to Operation Margin of Zone 3 Impedance Relays With Bus Power and Shunt Susceptance, 2. ホモトピー関数を用いた電圧・熱容量ATCの高速計算法の提案 3. A Method for Pricing VAR Providers in the Electricity Markets Considering Voltage Security	電力系統工学Ⅰ エネルギー発生工学
工学部 第三類 (化学・バイオ・プロセス系) 都留 稔 了	(代表的な研究活動) 膜分離法に関する研究 (主要論文等) 1. Nano/subnano-tuning of porous ceramic membranes for molecular separation 2. Methane Steam Reforming by Microporous Catalytic Membrane Reactors 3. Reverse osmosis of non-aqueous solutions through porous silica-zirconia membranes	基礎化学工学 物質移動論 化学工学実験
工学部 第四類 (建設・環境系) 神野 達 夫	(代表的な研究活動) 表層地盤が地震動に与える影響に関する研究 (主要論文等) 1. Control factors of spatial variation of long-period strong ground motions in the Yufutsu sedimentary basin, Hokkaido, during Mw 8.0 2003 Tokachi-oki, Japan, Earthquake 2. A New Attenuation Relation for Strong Ground Motion in Japan Based on Recorded Data 3. 2001年芸予地震時における広島県の地盤震動特性評価	建築材料力学演習 基礎振動論 コンピュータプログラミングA 建築防災

学部名, 学科等名, 教員名	研究活動及び主な研究業績等	授業科目名
生物生産学部 生物生産学科 吉村幸則	(代表的な研究活動) 鳥類の生殖器官における免疫機能とその内分泌的調節機構の解明 (主要論文等) 1. 獣医組織学 2. 図説動物形態学 3. Effects of age, egg-laying activity, and salmonella-inoculation on the expressions of gallinacin mRNA in the vagina of the hen oviduct.	動物生態機学 動物生産生理学

(出典：大学での集計)

資料3-3-①-B 大学院課程における教員の研究活動と担当授業科目

研究科名, 専攻等名, 教員名	研究活動及び主な研究業績等	授業科目名
大学院総合科学研究科 総合科学専攻 (博士課程前期) 斎藤祐見子	(代表的な研究活動) Gタンパク質共役型膜受容体の情報伝達機構に関する研究 (主要論文等) 1. Regulation of melanin-concentrating hormone receptor 1 signaling by RGS8 with the receptor third intracellular loop. 2. The Melanin-concentrating hormone system and its physiological functions. 3. The deorphanization of orphan GPCRs.	脳情報制御学
大学院総合科学研究科 総合科学専攻 (博士課程後期) 宇田川眞行	(代表的な研究活動) ラマン散乱による強相関電子系に関する研究 (主要論文等) 1. Off-Center Rattling and Anisotropic Expansion of Type-I Clathrates Studied by Raman Scattering 2. Raman scattering in KOs206 3. Raman Scattering Study of Guest Ion Motion in Cage Compounds	総合物理研究演習
文学研究科 人文学専攻 (博士課程前期) 有元伸子	(代表的な研究活動) 三島由紀夫に関する作家・作品研究 (主要論文等) 1. 『金閣寺』再読 一母なる, 父なる, 金閣 2. 三島由紀夫「薔薇と海賊」論 — 〈眠れる森〉の眠らない童話作家 3. 三島由紀夫『潮騒』論	日本近現代文学注釈研究A 日本近現代文学注釈研究B 日本近現代文学解説A 日本近現代文学解説B
文学研究科 人文学専攻 (博士課程後期) 山内廣隆	(代表的な研究活動) ドイツ観念論研究と実践的自然哲学研究 (主要論文等) 1. ヘーゲル哲学体系への胎動 2. 環境倫理の新展開 3. フィヒテからヘーゲルへ	西洋現代哲学文献研究A 西洋現代哲学文献研究B 西洋近世哲学演習A 西洋近世実践哲学研究A
教育学研究科 学習科学専攻 (博士課程前期) 木原成一郎	(代表的な研究活動) 体育の教師教育に関する研究 (主要論文等) 1. 教員養成段階の体育科目における模擬授業の意義に関する事例研究 2. イングランドにおけるインスペクション(査察)の教員養成への影響 3. 小学校体育科授業における「省察」の変容についての一考察	初等教育実践研究(体育) 初等教科学習開発課題研究 初等教科学習開発特講(体育)

研究科名, 専攻等名, 教員名	研究活動及び主な研究業績等	授業科目名
教育学研究科 特別支援教育学専攻 (博士課程前期) 木 船 憲 幸	(代表的な研究活動) 特別支援教育に関する研究 (主要論文等) 1. 特別支援学校のセンター的機能—ネットワークの形成— 2. 痙直型脳性まひ児の姿勢運動に及ぼす除皮質緊張の影響とその支援 3. 重症心身障害児(者)の問題行動と発達年齢の関係	特別支援教育特論 肢体不自由心理学特講 重複障害指導法特講
教育学研究科 科学文化教育学専攻 (博士課程前期) 小 山 正 孝	(代表的な研究活動) 数学理解の過程に関する研究 (主要論文等) 1. 数学理解の2軸過程モデルに基づく授業構成の原理と方法 2. 中学校数学科における「数と式」の学習指導の改善 3. Japanese Doctoral Programs in Mathematics Education: Academic or Professional	数学教育方法学特講 数学教育方法学特論 数学教育方法学特別研究
教育学研究科 言語文化教育学専攻 (博士課程前期) 佐々木 勇	(代表的な研究活動) 日本語の歴史的研究に関する研究 (主要論文等) 1. 文字・表記(史的研究) 2. 平安鎌倉時代における日本漢音の研究 3. 国宝本『三帖和讃』の研究資料と朱筆について	国語文化学特講Ⅰ 国語文化学特別研究 国語文化学基礎演習ⅢⅢ
教育学研究科 生涯活動教育学専攻 (博士課程前期) 黒 川 隆 志	(代表的な研究活動) スポーツトレーニングに関する研究 (主要論文等) 1. The effect of pool length on swimming intensity. 2. スタティック・ストレッチングの効果 3. 高校体育授業における持久走の指導方法に関する研究—同一人が3種類の持久走を実施した場合—	スポーツ教育方法学特講ⅢⅢ スポーツ教育方法学演習ⅢⅢ スポーツ教育方法学特別研究ⅢⅢ
教育学研究科 教育学専攻 (博士課程前期) 古 賀 一 博	(代表的な研究活動) 学校教員の人事評価制度に関する研究 (主要論文等) 1. 「能力開発型」教職員人事評価制度の効果的運用とその改善点 2. 「能力開発型」教職員人事評価制度に対する教員の意識傾向と諸特徴 3. 米国同僚教員支援・評価システムの特質と意義	教育行財政学特別研究 教育行政学特講Ⅰ
教育学研究科 心理学専攻 (博士課程前期) 湯 澤 正 通	(代表的な研究活動) 幼児・児童の認知発達と教育に関する研究 (主要論文等) 1. 科学的思考と科学理論の形成におけるメタ認知 2. 日本人幼児における音韻認識：日本人幼児にふさわしい英語教育について考える 3. 認知的道具の自発的使用と内化による概念発達：量概念の発達における重ね合わせと数の役割	教育心理学特別研究 教育心理学特講 教育心理学演習Ⅰ
教育学研究科 高等教育開発専攻 (博士課程前期) 秦 由美子	(代表的な研究活動) 高等教育に関する研究 (主要論文等) 1. イギリス高等教育におけるマス化の持つ意味 2. ヨーロッパにおける高等教育の国際化とイギリスへの影響 3. Current changes within the Japanese higher education system: Past and future	高等教育国際化論特講
教育学研究科 学習開発専攻 (博士課程後期) 木 船 憲 幸	(代表的な研究活動) 特別支援教育に関する研究 (主要論文等) 1. 特別支援学校のセンター的機能—ネットワークの形成— 2. 痙直型脳性まひ児の姿勢運動に及ぼす除皮質緊張の影響とその支援 3. 重症心身障害児(者)の問題行動と発達年齢の関係	学習開発特別研究ⅢⅢ (特別支援教育学分野) 学習開発講究ⅢⅢ (特別支援教育学分野)

研究科名, 専攻等名, 教員名	研究活動及び主な研究業績等	授業科目名
教育学研究科 文化教育開発専攻 (博士課程後期) 松浦伸和	(代表的な研究活動) 英語指導法に関する研究 (主要論文等) 1. Development and Education through School Subjects in Japanese School 2. 外国語教育における到達目標に関する日英比較 3. The Effect of Romaji Ability on Sub-Components of English Achievement at an Initial Learning Stage	言語文化教育学講義Ⅱ 言語文化教育学特別研究Ⅱ
教育学研究科 教育人間科学専攻 (博士課程後期) 坂越正樹	(代表的な研究活動) ドイツ教育哲学・教育思想に関する研究 (主要論文等) 1. Die Paedagogik im militarischen Japan 2. Eduard Spranger in Japan 3. デイリタイ教育学の展開：多様化・変容・危機—デイリタイとノール	教育学特別研究 教育学講義
社会科学研究科 法政システム専攻 (博士課程前期) 相澤吉晴	(代表的な研究活動) 国際不正競争法に関する研究 (主要論文等) 1. ドイツ国際私法改正法（1999年）における不正競争 2. ハーグ国際私法会議における不正競争 3. インターネットにおける国際不正競争法	涉外取引法システム コーポレート・ガバナンス演習
社会科学研究科 社会経済システム専攻 (博士課程前期) 坂根嘉弘	(代表的な研究活動) 近代日本経済史に関する研究 (主要論文等) 1. 近代日本の小農と家族・村落 2. 臨時農地等管理令に関する基礎研究 3. 戦時期日本における農地委員会の構成と機能	日本経済発展論 特別研究
社会科学研究科 マネジメント専攻 (博士課程前期) 星野一郎	(代表的な研究活動) 金融機関・金融商品等についての会計理論と会計政策をめぐ る問題に関する研究 (主要論文等) 1. 金融機関の会計政策—時価会計・利害調整・情報操作— 2. 金融機関の時価会計—背景・役割・影響— 3. 金融政策の法則—会計行動の特性と背景—	財務会計論 会計政策論 特別研究
社会科学研究科 法政システム専攻 (博士課程後期) 相澤吉晴	(代表的な研究活動) 国際不正競争法に関する研究 (主要論文等) 1. ドイツ国際私法改正法（1999年）における不正競争 2. ハーグ国際私法会議における不正競争 3. インターネットにおける国際不正競争法	法政システム特別演習
社会科学研究科 社会経済システム専攻 (博士課程後期) 吹春俊隆	(代表的な研究活動) 一般均衡論に関する研究 (主要論文等) 1. A Simulation of the Heckscher-Ohlin Theorem 2. General Equilibrium Analysis on Arms Exports to LDC Countries in Conflict 3. Asset Market Equilibrium: A Simulation	社会経済システム特別演習
社会科学研究科 マネジメント専攻 (博士課程後期) 星野一郎	(代表的な研究活動) 金融機関・金融商品等についての会計理論と会計政策をめぐ る問題に関する研究 (主要論文等) 1. 金融機関の会計政策—時価会計・利害調整・情報操作— 2. 金融機関の時価会計—背景・役割・影響— 3. 金融政策の法則—会計行動の特性と背景—	マネジメント特別演習

研究科名, 専攻等名, 教員名	研究活動及び主な研究業績等	授業科目名
理学研究科 数学専攻 (博士課程前期) 松本 眞	(代表的な研究活動) 代数の実学的応用に関する研究 (主要論文等) 1. Error Correcting Sequence and Projective De Bruijn Graph 2. A p-adic algorithm for computing the inverse of integer matrices 3. Projective de Bruijn Sequences	計算機支援数学 代数数理論D
理学研究科 物理学専攻 (博士課程前期) 杉立 徹	(代表的な研究活動) クォーク物理に関する研究 (主要論文等) 1. Formation of dense partonic matter in relativistic nucleus-nucleus collisions at RHIC: Experimental evaluation by the PHENIX collaboration 2. Dense-Medium Modifications to Jet-Induced Hadron Pair Distributions in Au+Au Collisions at $\sqrt{s_{NN}}=200$ GeV 3. Energy Loss and Flow of Heavy Quarks in Au+Au Collisions at $\sqrt{s_{NN}}=200$ -GeV	クォーク物理学 クォーク物理学セミナー
理学研究科 化学専攻 (博士課程前期) 田林 清彦	(代表的な研究活動) 内殻励起による分子・分子クラスターの光誘起化学に関する研究 (主要論文等) 1. Hydrogen bonding in methanol clusters probed by inner-shell photoabsorption spectroscopy in the carbon and oxygen K-edge regions 2. Site- and state-selective dissociation of core-excited organic molecules: Deuterium-labeled methyl acetate 3. Coincidence measurements of core-excited molecules and clusters using TOF fragment-mass spectroscopy	集積化学 集積化学セミナー
理学研究科 生物科学専攻 (博士課程前期) 道端 齊	(代表的な研究活動) ホヤの金属イオン濃縮機構に関する研究 (主要論文等) 1. Sequence variation of Vanabin2-like vanadium-binding proteins in blood cells of the vanadium-accumulating ascidian <i>Ascidia sydneiensis samea</i> . 2. Characterization of a novel vanadium-binding protein (VBP-129) from blood plasma of the vanadium-rich ascidian <i>Ascidia sydneiensis samea</i> . 3. Genes and proteins involved in vanadium accumulation by ascidians.	生理・環境応答 分子生理学演習
理学研究科 地球惑星システム学専攻 (博士課程前期) 嶋本利彦 田島文子 須田直樹	(代表的な研究活動) 断層と地震に関する研究 (主要論文等) 1. Ultra-low friction of carbonate faults caused by thermal decomposition 2. Variable seismic structure near the 660 km discontinuity associated with stagnant slabs and Geochemical Implications 3. Non-volcanic tremor resulting from the combined effect of Earth tides and slow slip events	断層と地震 実験岩石力学 地球の力学



研究科名, 専攻等名, 教員名	研究活動及び主な研究業績等	授業科目名
理学研究科 地球惑星システム学専攻 (博士課程後期) 嶋本利彦・田島文子・ 須田直樹	(代表的な研究活動) 断層と地震に関する研究 (主要論文等) 1. Ultra-low friction of carbonate faults caused by thermal decomposition 2. Variable seismic structure near the 660 km discontinuity associated with stagnant slabs and Geochemical Implications 3. Non-volcanic tremor resulting from the combined effect of Earth tides and slow slip events	断層と地震 実験岩石力学 地球の力学
理学研究科 数理分子生命理学専攻 (博士課程前期) 柴田達夫	(代表的な研究活動) 細胞スケールの生命現象に関する理論生物物理学および複雑系理論 (主要論文等) 1. Noise generation, amplification and propagation in chemotactic signaling systems of living cells 2. Mutual interaction in network motifs robustly sharpens gene expression in developmental processes 3. Fluctuation Analysis of Mechanochemical Coupling Depending on the Type of Biomolecular Motors	数理計算理学概論 現象数理学セミナー
先端物質科学研究科 量子物質科学専攻 (博士課程前期) 高島敏郎	(代表的な研究活動) 新規な希土類磁性化合物の研究 (主要論文等) 1. Giant uniaxial anisotropy in the magnetic and transport properties of CePd5Al2 2. Effects of rattling on electrical and thermal conductivity in AOs4Sb12 (A=Sr, Ba, La, Ce) single crystals 3. Easy-plane magnetocrystalline anisotropy in the multistep metamagnetism CeIr3Si2	量子物質科学講究 I 磁性物理学
先端物質科学研究科 分子生命機能科学専攻 (博士課程前期) 木梨陽康	(代表的な研究活動) 放線菌の線状プラスミドの二次代謝とゲノム進化における役割の解析 (主要論文等) 1. $\gamma$ -Butyrolactone autoregulator-receptor system involved in lankacidin and lankamycin production and morphological differentiation in Streptomyces rochei. 2. Two chimeric chromosomes of Streptomyces coelicolor A3(2) generated by single crossover of the wild-type chromosome and linear plasmid SCP1. 3. The large linear plasmid pSLA2-L of Streptomyces rochei has an unusually condensed gene organization for secondary metabolism.	分子生命機能科学講究 I 生命科学概論 分子生命機能科学セミナー ゲノム科学A 生命化学
先端物質科学研究科 半導体集積科学専攻 (博士課程前期) 吉川公麿	(代表的な研究活動) シリコン集積回路ワイヤレス配線の研究 (主要論文等) 1. Gaussian Monocycle Pulse Transmitter Using 0.18 $\mu$ m CMOS Technology With On-Chip Integrated Antennas for Inter-Chip UWB Communication 2. A 2.4 GHz Differential Wavelet Generator in 0.18 $\mu$ m Complementary Metal-Oxide-Semiconductor for 1.4 Gbps Ultra-Wideband Impulse Radio in Wireless Inter/Intra-Chip Data Communication 3. Ultrawideband Characteristics of Fractal Dipole Antennas Integrated on Si for ULSI Wireless Interconnects	半導体集積科学講究 I 先端物質科学特別講義 集積化情報伝送工学

研究科名, 専攻等名, 教員名	研究活動及び主な研究業績等	授業科目名
先端物質科学研究科 量子物質科学専攻 (博士課程後期) 高 島 敏 郎	(代表的な研究活動) 新規熱電変換物質の研究 (主要論文等) 1. Simultaneous structure and carrier tuning of diamorphic clathrate Ba8Ga16Sn30 2. Pressure-induced release of magnetic frustration in a quasi-kagome antiferromagnet YbAgGe 3. Cage-size control of guest vibration and thermal conductivity in Sr8Ga16Si30-xGex	量子物質科学講究Ⅱ
先端物質科学研究科 分子生命機能科学専攻 (博士課程後期) 黒 田 章 夫	(代表的な研究活動) ATP 微量測定法の確立, アスベスト結合蛋白質の発見等とその環境分野への応用 (主要論文等) 1. Detection of chrysotile asbestos by using a chrysotile-binding protein. 2. The Si-tag for immobilizing proteins on a silica surface. 3. ATP amplification for ultrasensitive bioluminescence assay: Detection of a single bacterial cell.	分子生命機能科学講究Ⅱ
先端物質科学研究科 半導体集積科学専攻 (博士課程後期) 吉 川 公 麿	(代表的な研究活動) シリコン集積化アンテナの研究 (主要論文等) 1. Early Breast Cancer Detection by Ultrawide Band Imaging with Dispersion Consideration 2. Signal Transmission Characteristics between Si Chips with Air Gap using Si Integrated Dipole Antennas 3. Analysis of Transmission Characteristics of Gaussian Monocycle Pulse for Silicon Integrated Antennas	半導体集積科学講究Ⅱ
保健学研究科 保健学専攻 (博士課程前期) 岡 村 仁	(代表的な研究活動) 精神障害者に対するリハビリテーションに関する研究 (主要論文等) 1. Factors that impede the discharge of long-term schizophrenic inpatients. 2. Factors associated with the somatic sensation of inpatients with schizophrenia. 3. Efficacy of group reminiscence therapy for elderly dementia patients residing at home: a preliminary report.	精神機能制御科学特論 精神機能制御科学特別演習
保健学研究科 保健学専攻 (博士課程後期) 横 尾 京 子	(代表的な研究活動) 周産期看護方法の開発に関する研究 (主要論文等) 1. Current status and future prospects of hospital Midwifery departments 2. 新生児医療におけるモラルスペース構築と倫理的意思決定への課題 3. わが国の新生児医療における治療拒否ー概念分析	周産期看護方法開発学特講 周産期看護方法開発学特講演習 看護開発学特別研究
工学研究科 機械システム工学専攻 (博士課程前期) 佐 伯 正 美	(代表的な研究活動) ロバスト制御系の解析と設計に関する研究 (主要論文等) 1. ループ整形のための1入力1出力PID制御器のモデルを用いない最適化 2. Properties of stabilizing PID gain set in parameter space 3. Fixed structure PID controller design for standard H-infinity control problem	制御工学特論

研究科名, 専攻等名, 教員名	研究活動及び主な研究業績等	授業科目名
工学研究科 複雑システム専攻 (博士課程前期) 石井 抱	(代表的な研究活動) 高速ビジョンに関する研究 (主要論文等) 1. 超速ハイパーヒューマンビジョンとその応用 2. Higher Order Autocorrelation Vision Chip 3. 高速視覚を用いた実時間三次元追跡システム	ロボティクス特論 I ロボティクス特論 II
工学研究科 情報工学専攻 (博士課程前期) 中野 浩嗣	(代表的な研究活動) ハードウェアとソフトウェアに関する研究 (主要論文等) 1. A Tiny Processing System for Education and Small Embedded Systems on the FPGAs 2. Processor, Assembler, and Compiler Design Education using an FPGA 3. Component Labeling for k-Concave Binary Images Using an FPGA	組み込みハードウェア特論 組み込みソフトウェア特論 ソフトウェア信頼性特論
工学研究科 物質化学システム専攻 (博士課程前期) 迫原 修治	(代表的な研究活動) 刺激応答性高分子に関する研究 (主要論文等) 1. Preparation of molecular imprinted thermosensitive gels grafted onto polypropylene by plasma-initiated graft polymerization 2. Porous poly(N-isopropylacrylamide) gels polymerized in mixed solvents of water and N, N-dimethylformamide 3. Compaction of TiO <sub>2</sub> suspension by using dual ionic thermosensitive polymers	高分子工学論 物質化学システム講究 I 物質化学システム講究 II
工学研究科 社会環境システム専攻 (博士課程前期) 藤井 堅	(代表的な研究活動) プレートガーダーの曲げ崩壊形式に関する研究 (主要論文等) 1. 極厚フランジを有するプレートガーダーの曲げ崩壊形式と変形能 2. 極厚フランジを有するプレートガーダーの曲げ崩壊形式 3. Collapse Mode of Plate Girder with Thick Flange under Bending	鋼構造物設計特論
工学研究科 機械システム工学専攻 (博士課程後期) 菅田 淳	(代表的な研究活動) 先進構造用材料の損傷機構解明に関する研究 (主要論文等) 1. Microstructural influence on small fatigue cracks in a ferritic-martensitic steel 2. マルテンサイト白色層を起点とした鉄道用車輪鋼の転がり接触下における疲労損傷評価 3. In-situ atomic force microscopy and crystallographic orientation analysis of small fatigue crack deflection behavior	機械システム工学講究 III 機械システム工学講究 IV 機械システム工学講究 V
工学研究科 複雑システム工学専攻 (博士課程後期) 辻 敏夫	(代表的な研究活動) 人間とロボットの運動制御に関する研究 (主要論文等) 1. 加速度センサを利用した義手型マニピュレータの筋音制御 2. Tracking Control Properties of Human-robotic Systems Based on Impedance Control 3. Bio-mimetic Impedance Control of Robotic Manipulator for Dynamic Contact Task	複雑システム工学講究 III 複雑システム工学講究 IV 複雑システム工学講究 V

研究科名, 専攻等名, 教員名	研究活動及び主な研究業績等	授業科目名
工学研究科 情報工学専攻 (博士課程後期) 中野浩嗣	(代表的な研究活動) アルゴリズムに関する研究 (主要論文等) 1. Near Optimal Randomized Initialization on the 1-Dimensinal Reconfigurable Mesh 2. An Energy Efficient Ranking Protocol for Radio Networks 3. Hardware n Choose k Counters with Applications to the Partial Exhaustive Search	情報工学講究Ⅲ 情報工学講究Ⅳ 情報工学講究Ⅴ
工学研究科 物質化学システム専攻 (博士課程後期) 大下浄治	(代表的な研究活動) 有機材料化学に関する研究 (主要論文等) 1. Applications of Silicon-Bridged Oligothiophenes to Organic FET Materials 2. Synthesis of Bis(diarylphosphino)-dithienosilole Derivatives as Novel Photo- and Electroluminescence Materials 3. Palladium-catalyzed silation of adamantane- and triol, leading to adamantane-siloxane alternating polymers with high heat resistance	物質化学システム講究Ⅲ
工学研究科 社会環境システム専攻 (博士課程後期) 岩下英嗣	(代表的な研究活動) 船舶・航空機・風力タービン等に関する研究 (主要論文等) 1. 船舶・航空機・風力タービン等に関する研究 2. 前翼式地面効果翼機の波浪中空力特性について 3. 弾性変形を利用した水平軸型ウインドタービン用ブレードの開発	社会環境システム講究Ⅲ
生物圏科学研究科 生物資源科学専攻 (博士課程前期) 海野徹也	(代表的な研究活動) 水産増養殖対象種の分子遺伝学的研究 (主要論文等) 1. Stock enhancement programme for black sea bream, <i>Acanthopagrus schlegelii</i> (Bleeker), in Hiroshima Bay. 2. Stock enhancement program for black sea bream ( <i>Acanthopagrus schlegelii</i> ) in Hiroshima Bay: Monitoring the genetic effects. 3. Molecular characterization of peroxisome proliferator-activated receptors (PPARs) and their gene expression in the differentiating adipocytes of red sea bream <i>Pagrus major</i> .	水産応用増殖学 水圏生物生産学演習 (A)
生物圏科学研究科 生物機能開発学専攻 (博士課程前期) 古澤修一	(代表的な研究活動) 免疫学に関する基礎的研究及び畜産動物や水産動物が持つ免疫応答機能の利用に関する研究 (主要論文等) 1. Chicken leukemia inhibitory factor maintains chicken embryonic stem cells in the undifferentiated state. 2. Humanization of chicken monoclonal antibody using phage-display system. 3. Chicken antibody against a restrictive epitope of prion protein distinguishes normal and abnormal prion proteins.	分子免疫学 分子生命開発学実験 分子生命開発学演習 (A)

研究科名, 専攻等名, 教員名	研究活動及び主な研究業績等	授業科目名
生物圏科学研究科 環境循環系制御学専攻 (博士課程前期) 上 真 一	(代表的な研究活動) クラゲ類大量発生の原因解明に関する研究 (主要論文等) 1. Population biomass, feeding, respiration and growth rates, and carbon budget of the scyphomedusa <i>Aurelia aurita</i> in the Inland Sea of Japan. 2. 近年の東アジア沿岸域におけるクラゲ類の大量出現: その原因と結果. 3. Bloom of the giant jellyfish <i>Nemopilema nomurai</i> : a threat to the fisheries sustainability of the East Asian Marginal Seas.	海洋生態系評価論 環境評価論演習 (A)
生物圏科学研究科 生物資源科学専攻 (博士課程後期) 海 野 徹 也	(代表的な研究活動) 水産増養殖対象種の分子遺伝学的研究 (主要論文等) 1. Stock enhancement programme for black sea bream, <i>Acanthopagrus schlegelii</i> (Bleeker), in Hiroshima Bay. 2. Stock enhancement program for black sea bream ( <i>Acanthopagrus schlegelii</i> ) in Hiroshima Bay: Monitoring the genetic effects. 3. Molecular characterization of peroxisome proliferator-activated receptors (PPARs) and their gene expression in the differentiating adipocytes of red sea bream <i>Pagrus major</i> .	水圏生物生産学演習 (B)
生物圏科学研究科 生物機能開発学専攻 (博士課程後期) 古 澤 修 一	(代表的な研究活動) 免疫学に関する基礎的研究及び畜産動物や水産動物が持つ免疫応答機能の利用に関する研究 (主要論文等) 1. Chicken leukemia inhibitory factor maintains chicken embryonic stem cells in the undifferentiated state. 2. Humanization of chicken monoclonal antibody using phage-display system. 3. Chicken antibody against a restrictive epitope of prion protein distinguishes normal and abnormal prion proteins.	分子生命開発学演習 (B)
生物圏科学研究科 環境循環系制御学専攻 (博士課程後期) 上 真 一	(代表的な研究活動) クラゲ類大量発生の原因解明に関する研究 (主要論文等) 1. Population biomass, feeding, respiration and growth rates, and carbon budget of the scyphomedusa <i>Aurelia aurita</i> in the Inland Sea of Japan. 2. 近年の東アジア沿岸域におけるクラゲ類の大量出現: その原因と結果. 3. Bloom of the giant jellyfish <i>Nemopilema nomurai</i> : a threat to the fisheries sustainability of the East Asian Marginal Seas.	環境評価論演習 (B)
医歯薬学総合研究科 医歯科学専攻 (修士課程) 菊 池 章	(代表的な研究活動) 細胞内シグナル伝達機構による細胞機能制御とその異常による病態に関する研究 (主要論文等) 1. Wnt3a and Dkk1 regulate distinct internalization pathways of LRP6 to tune the activation of $\beta$ -catenin signaling. 2. Caveolin is necessary for Wnt-3a-induced internalization of LRP6 and accumulation of $\beta$ -catenin. 3. GSK-3 $\beta$ -regulated interaction of BICD with dynein is involved in microtubule anchorage at centrosome.	医歯学特別研究(分子医化学) 医歯学演習 (分子医化学)

研究科名, 専攻等名, 教員名	研究活動及び主な研究業績等	授業科目名
医歯薬学総合研究科 口腔健康科学専攻 (修士課程) 二川 浩 樹	(代表的な研究活動) 塩基性抗菌ペプチド, 固定化抗菌剤, プロバイオティクスの 応用に関する研究 (主要論文等) 1. Research Projects related to Complete Dentures Published in 2006 by Members of the Japan Prosthodontic Society 2. Contribution of Finite Element Modeling to Assessment of Mandibular Movements. 3. Chewing Gum Containing Citric Acid Reduces the Burden of Periodontal pathogens.	口腔健康科学特論 口腔工学特論 口腔工学演習A 口腔工学演習B 口腔工学研究
医歯薬学総合研究科 薬学専攻 (博士課程前期) 武田 敬	(代表的な研究活動) 新規有機合成反応の開発とその生物活性物質合成への応用に 関する研究 (主要論文等) 1. Diastereoselective Brook Rearrangement-Mediated [3 + 4] Annulation: Application to a Formal Synthesis of (+)-Laurallene 2. Chirality Transfer from Epoxide to Carbanion: Base-Induced Alkylation of <i>O</i> -Carbamoyl Cyanohydrins of <i>b</i> -Silyl- $\alpha$ , $\beta$ -epoxyaldehyde 3. Stereocontrolled Construction of Seven-Membered Carbocycles Using a Combination of Brook Rearrangement-Mediated [3 + 4] Annulation and Epoxysilane Rearrangement	創薬合成化学特論 創薬合成化学特論演習 創薬合成化学特別実習
医歯薬学総合研究科 薬学専攻 (博士課程後期) 武田 敬	(代表的な研究活動) 新規有機合成反応の開発とその生物活性物質合成への応用に 関する研究 (主要論文等) 1. Diastereoselective Brook Rearrangement-Mediated [3 + 4] Annulation: Application to a Formal Synthesis of (+)-Laurallene 2. Chirality Transfer from Epoxide to Carbanion: Base-Induced Alkylation of <i>O</i> -Carbamoyl Cyanohydrins of <i>b</i> -Silyl- $\alpha$ , $\beta$ -epoxyaldehyde 3. Stereocontrolled Construction of Seven-Membered Carbocycles Using a Combination of Brook Rearrangement-Mediated [3 + 4] Annulation and Epoxysilane Rearrangement	創薬合成化学特別演習 創薬合成化学特別実験
医歯薬学総合研究科 創生医科学専攻 (博士課程) 高田 隆	(代表的な研究活動) 口腔疾患に関する病理学的研究 (主要論文等) 1. IFN-induced transmembrane protein 1 promotes invasion at early stage of head and neck cancer progression. 2. Aberrant beta-catenin expression and adenomatous polyposis coli gene mutation in ameloblastoma and odontogenic carcinoma 3. Constitutive phosphorylation of aurora-a on ser51 induces its stabilization and consequent overexpression in cancer.	バイオデンティストリーの創 生展開 口腔顎顔面分子病態学特別演 習 口腔顎顔面分子病態学特別実 験

研究科名, 専攻等名, 教員名	研究活動及び主な研究業績等	授業科目名
医歯薬学総合研究科 展開医科学専攻 (博士課程) 河野修興	(代表的な研究活動) 呼吸器疾患の新しい診断・治療法の開発研究 (主要論文等) 1. Usefulness monitoring of circulating KL-6 in patients with advanced non-small cell lung cancers treated with gefitinib therapy. 2. Suppressor of cytokine signaling1 inhibits pulmonary inflammation and fibrosis 3. Cancer-testis antigen lymphocyte antigen 6 complex locus K is a serologic biomarker and a therapeutic target for lung and esophageal carcinomas	分子内科学特別演習 分子内科学特別実験
国際協力研究科 教育文化専攻 (博士課程前期) 馬場卓也	(代表的な研究活動) 民族教学に基づく数学教育カリキュラムに関する研究 (主要論文等) 1. 理数科教育分野の国際協力 2. 理数科教育開発研究の視点から 3. 多様な価値観を有する社会・時代における算数教育	数学教育開発論
国際協力研究科 開発科学専攻 (博士課程後期) 藤原章正	(代表的な研究活動) 都市形態が運輸エネルギー消費量に及ぼす影響に関する研究 (主要論文等) 1. Motorization in Asia -14 Countries and Three Metropolitan Areas-, Journal of International Association of Traffic and Safety Sciences, 31(7), 46-58, 2. Exploring Japanese Tourists' Choice Behaviors of Tour Plans along the Asian Highway based on a Paired Combinatorial Logit Model with Stated Preference Data, Proceedings of the 5th APac-CHRIE and the 13th APTA Joint Conference, Beijing, (CD-ROM) 3. Environmental efficiency analysis of urban transportation systems using a multi-output stochastic frontier model with flexible cause-effect structure, Journal of the Eastern Asia Society for Transportation Studies, 7, 1475-1489,	地域・都市計画演習 I 地域・都市計画演習 II

(出典：大学での集計)

資料3-3-①-C 専門職学位課程における教員の研究活動と担当授業科目

研究科名, 専攻名, 教員名	研究活動及び主な研究業績等	授業科目名
法務研究科 法務専攻 (専門職課程) 小梁吉章	(代表的な研究活動) フランス倒産法とその歴史的変遷を社会経済的要因との関係を踏まえながら検討するとともに2005年に成立した改正法を分析、日本の倒産法への影響についても論じている。 (主要論文等) 1. フランス倒産法 2. 倒産法講義—倒産法と経済社会— 3. 国際民商事法講義	倒産処理法1 国際取引法 国際民事訴訟法

(出典：大学での集計)

資料3-3-①-D 専攻科における教員の研究活動と担当授業科目

専攻科名, 専攻名, 教員名	研究活動及び主な研究業績等	授業科目名
特別支援教育特別専攻科 特別支援教育専攻 木船憲幸	(代表的な研究活動) 特別支援教育に関する研究 (主要論文等) 1. 特別支援学校のセンター的機能—ネットワークの形成— 2. 重症心身障害児(者)の問題行動と発達年齢の関係 3. 痙直型脳性まひ児の姿勢運動に及ぼす除皮質緊張の影響とその支援	特別支援教育特論 重複障害指導法概論 肢体不自由心理・生理・病理概論

(出典：大学での集計)

【分析結果とその根拠理由】

教育内容と関連する研究活動は、広く多様な形で展開している。

以上により、教育の目的を達成するための基礎として、教育内容等と関連する研究活動を行っている。

観点 3-4-①： 大学において編成された教育課程を遂行するのに必要な事務職員、技術職員等の教育支援者が適切に配置されているか。また、TA等の教育補助者の活用が図られているか。

【観点に係る状況】

それぞれの教育課程を効果的に展開する見地から、資料 3-4-①-A に示すように、教務系事務職員及び技術職員を配置している。特に、技術センターは、資料 3-4-①-B に示すように、本学の教育研究に関する技術的支援業務を全学的立場から行うため、部局等の要請に基づき技術職員を派遣している。

また、図書館への司書資格者の配置状況は、資料 3-4-①-C に示すとおりである。

さらに、ティーチング・アシスタントの活用については、その取扱要領を別添資料 3-4-①-1 のとおり定め、活用している。なお、ティーチング・アシスタントの配置状況は資料 3-4-①-D に示すとおりである。

資料 3-4-①-A 事務職員及び技術職員の配置状況（平成 21 年 5 月 1 日現在）

支援室等名	支援対象部局名	事務職員	技術職員
教育室教務グループ	全学	10	
技術センター	全学		75
総合科学研究科支援室	総合科学部・総合科学研究科	8	
文学研究科支援室	文学部・文学研究科	4	
教育学研究科支援室	教育学部・教育学研究科	12	
社会科学研究科支援室	法学部・経済学部・社会科学研究科	6	
理学研究科支援室	理学部・理学研究科	3	
先端物質科学研究科支援室	先端物質科学研究科	2	
工学研究科支援室	工学部・工学研究科	8	
生物圏科学研究科支援室	生物生産学部・生物圏科学研究科	4	
医歯薬学総合研究科等支援室	医学部・歯学部・薬学部・保健学研究科・医歯薬学総合研究科	12	
国際協力研究科支援室	国際協力研究科	3	
東千田地区支援室	法学部（夜間主コース）・経済学部（夜間主コース）・法務研究科	4	

（出典：大学での集計）

資料 3-4-①-B 技術センターの業務内容等

区分	内容
業務内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 研究プロジェクトへの参加など、研究支援を主とする業務</li> <li>○ 実験、実習における技術的指導など、教育支援を主とする業務</li> <li>○ 実験機器・試料の製作など製品・役務提供を主とする業務</li> <li>○ 全学あるいは部局、学科等単位の技術支援業務</li> </ul>
組織	広島大学技術センターは、センター長（教員）および技術統括、技術副統括、6 部門 13 班からなる教室系技術職員で構成
内規	別添資料 3-4-①-2 のとおり

（出典：広島大学技術センターウェブページ <http://tehc.hiroshima-u.ac.jp/gaiyou/gaiyou.html>）



資料3-4-①-C 司書資格者配置状況（平成21年5月1日現在）

キャンパス名	図書館名	主 な 分 野	司書資格者数		備 考
			専任職員	臨時職員	
東広島キャンパス	中央図書館	教育学, 人文科学, 社会科学, 自然科学	24	9	
	東図書館	自然科学	1	1	
	西図書館	学習資料	1	2	
霞キャンパス	霞図書館	医学	3	2	
東千田キャンパス	東千田図書館	社会科学	1	2	
計			30	16	

(出典：大学での集計)

資料3-4-①-D TAの配置状況（平成20年度実績）

研究科名	TAの配置状況(人)	採用時間数
総合科学研究科	139	7,437
文学研究科	86	2,622
教育学研究科	292	11,535
社会科学研究科	49	2,733
理学研究科	133	8,489
先端物質科学研究科	162	7,126
保健学研究科	42	2,352
工学研究科	521	25,055
生物圏科学研究科	159	9,486
医歯薬学総合研究科	184	27,690
国際協力研究科	53	2,169
計	1,820	106,694

(出典：大学での集計)

参照資料：別添資料3-4-①-1 ティーチング・アシスタントの任免等の取扱要領  
別添資料3-4-①-2 広島大学技術センター内規

【分析結果とその根拠理由】

それぞれの教育課程を効果的に展開する見地から、教務系事務職員及び技術職員を配置している。特に、教育研究に関する技術的支援業務を全学的立場から行うために技術センターを設置し、部局等の要請に基づき技術職員を派遣している。

また、各図書館へは司書資格者を配置している。

さらに、ティーチング・アシスタントの活用においては、その取扱要領を定め活用している。

以上により、大学において編成された教育課程を展開するために必要な事務職員、技術職員等の教育支援者を適切に配置し、TA等の教育補助者の活用を図っている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- 教員の採用にあたっては、教員選考についての基本指針に基づき、教育と研究の一層の充実を図るため、全学で公募制を原則としている。また、男女共同参画の積極的推進、任期制、サバティカル研修制度、優秀教員評価制度の導入など、教員の活動をより活性化するための適切な措置を講じている。

- 学士課程教育（教養教育を含む）又は大学院課程教育について、全ての学部・研究科等において学生の授業評価アンケートを毎年前期と後期で実施している。その分析結果は、各部局及び教員に周知している。また、各部局においても、評価結果を教員にフィードバックし、授業改善に結びつける取組を行っている。
- 教育研究に関する技術的支援業務を全学的立場から行うために技術センターを設置し、部局等の要請に基づき技術職員を派遣している。

**【改善を要する点】**

- 該当なし

**（3）基準3の自己評価の概要**

学士課程、大学院課程及び専門職学位課程の各課程の教育遂行に必要な教員数を確保するとともに、「広島大学学則」及び「広島大学の講座、学科目、研究部門及び診療科等規則」において、それぞれの教育研究の目的や特性に応じた教員組織を編成している。また、「広島大学部局運営規則」及びこの規則に基づく各部局の運営内規により、教育研究に係る責任の所在を明確に定めている。

教員の採用、昇任の資格審査基準等は、教員の選考基準及び教員選考についての基本指針を設けるとともに、各部局において当該教員の担当ごとに、学士課程に関しては教育上の指導能力、大学院課程に関しては教育研究指導能力を中心とした基準を適切に定め、評価を実施しており、これらに基づいた採用や昇任を実施している。また、教員採用にあたっては、全学で公募制を原則にするとともに、男女共同参画の積極的推進、任期制、サバティカル研修制度、優秀教員評価制度の導入など、教員の活動をより活性化するための適切な措置を講じている。

学士課程教育（教養教育を含む）又は大学院課程教育について、全ての学部・研究科等において学生の授業評価アンケートを毎年前期と後期で実施し、その分析結果又は評価結果を各部局及び教員にフィードバックして、授業改善に結びつける取組を行っている。

教育の基礎となる研究活動については、教育内容と関連する活動を広く多様な形で展開している。

それぞれの教育課程を効果的に展開する見地から、教務系事務職員及び技術職員を配置している。特に、教育研究に関する技術的支援業務を全学的立場から効率的に行うために技術センターを設置し、派遣システムを構築し、部局等の要請に基づき技術職員を派遣している。また、図書館へは司書資格者を配置している。さらに、ティーチング・アシスタントの活用においては、その取扱要領を定め、積極的に活用し、教育補助者の充実に努めている。